

秘

海軍公報 第四八九三號

昭和二十年一月二日(火) 海軍大臣官房

○令 達

内令第一三八六號

昭和二十年戰團訓練等ニ關シ左ノ通定ム

昭和十九年十二月二十八日

海軍大臣

一 戰團訓練

(イ) 戰團訓練ノ實施區分ハ特令スル場合ノ外聯合艦隊司令長官又ハ所屬長官ノ定ムル所ニ依ル

(ロ) 昭和二十年度消耗兵器年額ハ別ニ之ヲ告達ス

二 各種檢定

(イ) 檢定褒賞費ハ被檢定者一人ニ對シ八拾錢ノ割合ニ依リ所屬長官ノ請求ヲ俟テ之ヲ配付ス

(ロ) 所屬長官ハ海軍檢定褒賞令施行規則第三條ノ規定ニ拘ラズ一教育年度ニ於テ檢定作業ニ從事シタル期間四月ニ滿タザル者ニ對シテモ授賞スルコトヲ得

(ハ) 海軍檢定褒賞令施行規則第四條第一項ニ規定スル賞狀ハ之ヲ省略スルコトヲ得

三 競 技

(イ) 所屬長官ハ前號ノ檢定ヲ實施シ得ザル場合ニ於テハ該檢定ニ代フルニ同種類ノ競技ヲ施行セシムルコトヲ得

(ロ) 前項ニ依ル競技費ハ年度ヲ通シ競技員一人ニ對シ六拾錢ノ割合ニ依リ所屬長官ノ請求ヲ俟テ別途配付ス

四 報 告

戰團訓練規則草案第百十五條及前號ニ依ル各種報告ハ所屬長官ニ於テ必要ト認ムルモノノ外之ヲ省略スルコトヲ得

官房人機密第二〇六四號

空襲等ニ因ル被害者ノ身上取扱内規左ノ通定ム

昭和十九年十二月二十九日

海軍大臣

空襲等ニ因ル被害者ノ身上取扱内規

第一條 本内規ハ大東亞戰爭中海軍軍人軍屬及海軍ノ任務遂行ニ協力中ノ部外者ニシテ帝國内(帝國領土中戰地トシテ取扱ハレアル地域ヲ除ク)ニ於テ空襲其ノ他敵ノ兵器等ニ因リ死亡シ又ハ傷疾ヲ受ケタルモノノ身上取扱ニ關スルコトヲ規定ス

第二條 左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ之ヲ作戰部隊指揮官ノ指揮下ニ在リテ對敵行動中ノ者ニ準ジ取扱フモノトス

一 鎮守府又ハ警備府所屬各廳(作戰部隊ヲ除ク)勤務員
守府司令長官又ハ警備府司令長官ノ命ヲ承ケ防衛ニ從事シ
因テ死亡シタルトキ

秘海軍公報 第四八九三號 昭和二十年一月二日

二 前號ノ外海軍官廳勤務員鎮守府令、警備府令、旅順警備府令又ハ商港警備府令ノ規定ニ依リ鎮守府司令長官又ハ警備府司令長官ノ指揮ヲ承テ防衛ニ從事シ因テ死亡シタルト

鎮守府又ハ警備府所屬各廳及該警備區内ニ在ル海軍官廳ノ勤務員公務ニ從事中敵ノ兵器等ニ因リ死亡シタルトキハ狀況ニ依リ前項ノ規定ニ準ジ取扱フコトヲ得

第三條 部外者海軍ノ任務遂行ニ協力中敵ノ兵器等ニ因リ死亡シタルトキハ被害ノ前日ヲ以テ海軍軍屬ト爲シ前條第二項ノ規定ニ準ジ取扱フコトヲ得但シ直接海軍ノ業務ニ從事シタル者ニシテ特ニ必要アルモノノ外死亡ニ伴フ給與及海軍葬儀ヲ行フコトナシ

第四條 前二條ノ規定ニ該當スル者ハ被害ノ日以前ニ廻リ最寄海軍部隊（鎮守府又ハ警備府ノ戰時編成部隊）ニ臨時兼動ヲ命ズルモノトス

第五條 前三條ノ規定ハ第二條及第三條ノ場合ニ於テ傷痍ヲ受ケタル者ニ付之ヲ準用ス但シ輕傷者ニ付テハ此ノ限ニ在ラズ

官房經機密第一八八八號
海軍戰時特例給與規則中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月三十日

海軍大臣

第一條ノ二中「戰時食料」ノ下ニ「及増加食料」ヲ添テ



第一條ノ五中「及戰時食料」ヲ「戰時食料及増加食料」ニ改メ第二十四條ノ二 戰地外ニ在ル海軍官衛又ハ學校（警備隊ヲ兼ネシメラレタルモノヲ除ク）ノ勤務者ヲ以テ編成セラレタル防護團ノ團員ニシテ當該指揮官ノ命令ニ依リ防空任務ニ從事シ左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ハ増加食料トシテ一夜ニ付五十錢ヲ支給ス

一 執務時間ヨリ引續キ服務シ午後八時以後ニ及ビタルトキ二 午後六時ヨリ翌朝午前六時迄ノ間ニ登廳シ服務シタルトキ

前項ノ一夜トハ午後六時ヨリ翌朝午前六時迄ノ間ヲ謂フモノトス
第一項ノ規定ニ依ル増加食料ハ之ヲ前條ノ戰時食料ト併給スルモノトス

海軍給與令第七十九條ノ七第三號及第四號ニ該當スル者ニシテ第八條ノ二ノ規定ニ依リ夜食料ノ支給ヲ受ケタルモノノ第一項ノ規定ニ該當スルトキハ其ノ多額ニ付之ヲ支給スルコトヲ得

附則
本令ハ昭和十九年十一月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

（參照）海軍機密會計法規類集二二頁

○ 通 牒

軍務一第二四三號

昭和十九年十二月二十九日

各廳長 殿

海軍省軍務局長

東京方面赴任者ノ家族移轉ニ關スル件申進
空襲對策上東京都所在ノ空家ハ解毀整理セラルル方針ニ有之貸
家ノ著シキ拂底ヲ豫見セラルルニ付テハ同都方面各廳ヘノ轉勤
者ヲシテ成ルベク家族ヲ之ニ移轉セシメザル様取計相成度

海人機密第二六五號

昭和十九年十二月三十日

海軍省人事局長
海軍省經理局長

各廳長 殿

襲等ニ因ル被害者ニ對スル慰籍ニ關スル件

首題ノ件ヲ記ノ通定メラレ候條可然處理相成度

- 一 海軍軍人、軍屬及其ノ家族敵ノ空襲等ニ依リ被害ヲ受ケタルトキハ別表(別紙第一)ニ依リ見舞金ヲ贈與スルコトヲ得
- 二 見舞金ハ恤兵金支出トス
- 三 所轄長見舞金贈與ノ必要アリト認メタルトキハ別紙第三ノ調書ヲ作成シ東京都所在ノ各廳ニ在リテハ海軍省經理局長ニ、其ノ他ニ在リテハ所管鎮守府又ハ警備府所在地ノ海軍經理部長ニ送付シ現金ノ送付ヲ受ケ之ヲ本人又ハ家族ニ贈與スルモノトス

祕海軍公報 第四八九三號 昭和二十年一月二日

四 所轄長見舞金ヲ贈與シタルトキハ海軍省人事局長及海軍省經理局長(連名)ニ通報シ(通報様式ハ別紙第二ニ準ズ)寫一通ヲ所管鎮守府又ハ警備府所在地ノ海軍人事部長及海軍經理部長(連名)ニ送付スルモノトス
(別紙添)

經豫第三號ニ二七五

昭和十九年十二月三十日

海軍省經理局長

關係各支出官、資金前渡官吏殿

現役及優遇職員給補填金等ノ科目ヨリ支出シ得ル範圍ニ關スル件中改正ノ件通牒

昭和十九年經豫第三號ノ六三通牒首題ノ件中左記ノ通改正ス追テ既支出済ノ分ハ其ノ儘トシ科目更正ノ必要無之

記

第一號ノ(イ)及(ロ)中在勤加俸ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ、第三項中「在勤加俸」ノ下ニ、「賞與」ヲ加フ
賞與 右俸給額ニ相當スル額迄ハ賞與支辨

(參照) 海軍會計法規類集一卷一四四ノ三頁

○ 雜 款

○ 昭和二十年一月申ニ於ケル海軍關係員ニ對スル訓令ニ依ル諸講習實施一覽表

| 番號 | 種別 | 場所 | 期日 | 員數 | 記 | 事 |
|---|------------------|-----|-------|--------|----|-----|
| 一 | 船長等 (船團運動) | 航校 | 一、三、七 | 約三〇 | | |
| 二 | 航海士(一航) (應急術) | 同右 | 一、三、六 | 約三五 | | |
| 三 | 航海士(二航) (應急術) | 航校 | 一、三、七 | 約三五 | 前半 | 對潛校 |
| 四 | 甲板長操機長 (應急術) | 航校 | 一、三、六 | 約三六 | | |
| 五 | 船舶通信士 (電測術) | 電測校 | 一、三、五 | 約三〇 | 前半 | 對潛校 |
| 六 | 普通船員(水測) | 潛防校 | 一、三、六 | 各約四〇 | | |
| 七 | 機關士長 (淡煙焚火) | 工機校 | 一、三、七 | 約四〇 | | |
| 八 | 操機長 (同右) | 同右 | 一、三、三 | 約三〇 | | |
| 九 | 船舶機關員 (同右) | 同右 | 一、三、五 | 約六〇 | | |
| 一〇 | 乘船機員 (同右) | 同右 | 一、三、五 | 約二〇 | | |
| 一一 | 攻A T型船 (重油噴燃) | 同右 | 一、三、三 | 約三五 | | |
| 一二 | 航海練習所 (對潛警戒) | 潛校 | 一月下旬 | | | |
| ○事務所撤去 | | | | | | |
| (海軍省教育局) | | | | | | |
| 波號第一〇六潜水艦裝員事務所 | 撤去月日 | 記 | 事 | | | |
| 海防艦稻木艦裝員事務所 | 一二月一六日 | | | | | |
| 第十四號輸送艦裝員事務所 第六十九號海防艦裝員事務所 第十五號輸送艦裝員事務所 ○本日軍機秘海軍公報第五七號(甲配付)發行セリ ○本日海軍公報發行セズ | | | | | | |
| | | | | 一二月一八日 | | |
| | | | | 一二月二〇日 | | |
| | | | | 一二月二〇日 | | |

(海人機密第二六五號別紙第二)

敵 襲 二 因 ル 被 害 調 書

所 (昭和二十年一月二日秘海軍公報) 轄

(備考) 人體被害ト住家被害トハ別紙トス

| 住 | 所 | 被害區分 | 被害者 | 官職 | 氏名 |
|---|---|------|-----|----|----|
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |
| | | | | | |

1584

(海人機密第二六五號別紙第一)

見舞金表

(昭和二十年一月二日秘海軍公報)

| 事 | 項 | 軍人、軍屬 | 家 | 族 |
|----|-----------|-------|---|-----|
| 死 | 亡 | 一〇四 | | 五〇四 |
| 負 | 傷(輕傷者ヲ除ク) | 一 | | 五〇 |
| 住家 | 全壊、全焼 | | | 一〇〇 |
| 住家 | 半壊、半焼 | | | 五〇 |

備考

- 一 本人死亡ニ對スル見舞金ハ昭和十九年官房人機密第二〇六四號第三條但書ニ規定スル給與及海軍葬儀ヲ行ハレザル者ニ對シテハ供花料トシテ葬儀ノ際之ヲ呈スルモノトス
- 二 死傷家族ニ對スル見舞金ノ金額ハ被害者ノ員數ヲ問ハザルモノトス
- 三 家族トハ軍人軍屬タル本人ニ扶養セララル者ヲ謂ク
- 四 二回以上ノ被害及住家以外ノ被害ニ付テハ狀況ニ依リ詮議スルモノトス

秘

海軍公報 第四八九四號

昭和二十年一月四日(木) 海軍大臣 宣

○令 達

内令第一三三八三號
海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和十九年十二月二十五日

海軍大臣 臣

呉鎮守府ノ部中第三四一海軍航空隊ノ項ノ次ニ左ノ如ク加フ

第三四三海軍航空隊

松山航空基地(愛媛縣溫泉郡)

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第一三三八四號

驅逐艦 壘

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

第百十八號海防艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

佐世保鎮守府在籍

第百十八號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

昭和十九年十二月二十七日

海軍大臣 臣

内令第一三八七號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月二十八日

海軍大臣 臣

第十六警備隊ノ項驅逐特務艇ノ欄「第六十七號」

「第二百二十號(吳)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第一三八八號

特設船舶救難本部令左ノ通定メラル

昭和十九年十二月三十日

海軍大臣 臣

特設船舶救難本部令

第一條 大東亞戰爭中東京ニ船舶救難本部ヲ置ク

第二條 船舶救難本部ハ沈没、擱浅、受損船舶其ノ他ノ救難、浮揚、解體及撤収ニ關スル事項ヲ掌ル

第三條 船舶救難本部ニ總務部及會計部ヲ置ク

各部事務ノ分掌ハ海軍大臣之ヲ定ム

第四條 船舶救難本部ニ左ノ職員ヲ置ク

本部長

總務部長

秘海軍公報 第四八九四號 昭和二十年一月四日

五

1586

昭和十九年十二月三十日

海軍大臣

會計部長
部員
附 副部員

第五條 本部長ハ海軍大臣ニ隸シ部務ヲ總理ス

第六條 本部長ハ必要ニ應ジ所要ノ場所ニ船舶救難本部ノ支部
又ハ出張所ヲ置キ其ノ事務ノ一部ヲ管理セシムルコトヲ得此
ノ場合ニ於テハ速ニ海軍大臣ニ報告スベシ

支部又ハ出張所ヲ置キタル場合ニ於テハ支部長又ハ出張所長
ハ部員ヲ以テ之ニ充ツルモノトス

第七條 本部長ハ部下ノ職員缺員中又ハ事故アルトキハ他ノ職
員ヲシテ其ノ職務ヲ代理セシムルコトヲ得

第八條 本部長缺員中又ハ事故アルトキハ部下ノ職員席次ニ從
ヒ其ノ職務ヲ代理ス但シ海軍大臣特ニ代理者ヲ置キタル場合
ハ此ノ限ニ在ラス

第九條 總務部長及會計部長ハ本部長ノ命ヲ承ケ各部ノ事務ヲ
掌理ス

前項ノ外總務部長ハ本部長ヲ輔佐シ部務ヲ整理ス、

第十條 部員、副部員及附ハ上官ノ命ヲ承ケ服務ス

第十一條 船舶救難本部ノ定員ハ別表ニ依ル
(別表添)

内令第一三八九號

船舶救難本部處務規程左ノ通定ム

船舶救難本部處務規程

第一條 本部長ハ船舶救難本部所掌ノ事項ニ關シ法規ノ制定又
ハ改廢ヲ必要ト認ムルトキハ案ヲ具シテ海軍大臣ニ提出スベ
シ

第二條 船舶救難本部ハ關係各部ト十分ニ氣脈ヲ通ズベシ

第三條 本部長ハ部員以下定員ノ配屬ヲ定メ之ヲ海軍省軍務局
長及人事局長ニ通報スベシ

第四條 本部長ハ部務整理ノ爲部内ノ服務規程ヲ定ムルコトヲ
得

第五條 特設船舶救難本部令第八條ノ規定ニ依リ本部長ノ職務
ヲ代理シタルトキハ代理者ハ之ヲ海軍大臣ニ報告スベシ

第六條 船舶救難本部ノ文書取扱ニ付テハ海軍省處務規程第四
章ノ規定ニ準ズルモノトス

第七條 總務部ハ左ノ事務ヲ掌ル

一 各部ノ事務ノ綜合統一ニ關スルコト

二 公文書類ノ接受及發送ニ關スルコト

三 人事及勞務ニ關スルコト

四 本部長及部ノ官印管守ニ關スルコト

五 船舶救難(沈船處理ヲ含ム以下同ジ)ニ關スル統制ニ關
スルコト

六 船舶救難ニ關スル各部ノ連絡ニ關スルコト

| | |
|---|--|
| <p>七 船舶救難ニ關スル部外會社ニ關スルコト</p> <p>八 器材ノ整備及企畫ニ關スルコト</p> <p>九 其ノ他會計部ノ所掌ニ屬セザルコト</p> <p>十 統計及年報材料ニ關スルコト</p> <p>第八條 會計部ハ左ノ事務ヲ掌ル</p> <p>一 船舶救難ニ關スル資材及物品ノ準備、保管及出納ニ關スルコト</p> <p>二 船舶救難ニ關スル資材及物品ノ所要量調査及配分ニ關スルコト</p> <p>三 船舶救難ニ關スル部外會社ノ調査ニ關スルコト</p> <p>四 船舶救難本部關係豫算ニ關スルコト</p> <p>五 船舶救難本部關係勞務者ノ給與ニ關スルコト</p> <p>六 統計及年報材料ニ關スルコト</p> <p>内令第一三九〇號</p> <p>特設艦船部隊令中左ノ通改正セラル</p> <p>昭和十九年十二月三十日</p> <p>海 軍 大 臣</p> <p>第二條第二號中「特設特別工作部」ヲ削ル</p> <p>第十七章ノ二ヲ削ル</p> <p>第十七章ノ三ヲ第十七章ノ二トス</p> <p>第七十一條ノ九ヲ第七十一條ノ三トシ以下第七十一條ノ十五迄順次繰上フ</p> <p>(内令提要卷一、四七頁参照)</p> | <p>内令第一三九一號</p> <p>特設艦船部隊職員服務規程中左ノ通改正ス</p> <p>昭和十九年十二月三十日</p> <p>海 軍 大 臣</p> <p>第三十條ノ三ヲ削ル</p> <p>(内令提要卷一、六二ノ一頁参照)</p> <p>内令第一三九二號</p> <p>潜水隊編制中左ノ通改正セラル</p> <p>昭和十九年十二月三十日</p> <p>海 軍 大 臣</p> <p>第六潜水隊ノ項ノ前ニ左ノ二項ヲ加フ</p> <p>第一潜水隊 伊號第十三、伊號第四百</p> <p>(内令提要卷一、七〇頁参照)</p> <p>官房人機密第二〇五九號</p> <p>左ノ各號ニ依リ臨時飛行機整備術(修補)講習ヲ施行ス</p> <p>鎮守府司令長官ハ第三號ノ講習員ヲ各次講習開始期日迄ニ横須賀海軍航空隊ニ入隊セシムベシ</p> <p>昭和十九年十二月二十六日</p> <p>海 軍 大 臣</p> <p>一 講習目的</p> <p>航空隊修補科ノ幹部ノ配置ニ充ツベキ者ヲ養成スルニ在リ</p> |
|---|--|

秘海軍公報 第四八九四號 昭和二十年一月四日

二 講習項目
 (イ) 飛行機修補ニ必要ナル要務
 飛行機整備術

(ハ) 飛行機修補術
 其ノ他必要ト認ムル事項
 三 講習回次、講習期間及講習員

| 講習回次 | 講習期間 | | 領守府別講習員數(標準) | 横須賀 | 吳 | 佐世保 | 舞鶴 | 記 |
|------|-----------|----|--------------|-----|----|-----|----|---|
| | 開始 | 終日 | | | | | | |
| 第一次 | 昭和二十年一月一日 | | 九 | 八 | 一〇 | 三 | | 一 主トシテ准士官學生基礎教育ヲ終了セル工兵曹長ノ内航空隊員豫定ノ適任者ヲ選抜シ引續キ本講習ニ参加セシムルモノトス |
| 第二次 | 二月二十日 | | 九 | 八 | 一〇 | 三 | | 二 本講習ヲ終了シタル者ハ其ノ特修科目ニ應ジ沼津工務學校高等科工作術ヲ履修シタルモノト看做ス |
| 第三次 | 四月十日 | | 九 | 八 | 一〇 | 三 | | 三 各領守府ニ於テハ上記標準員數内ニ於テ各種修習員ノ目上取者ヲ毎回選出シテ |
| 第四次 | 七月一日 | | 九 | 八 | 一〇 | 三 | | 四 各種修習員ノ目上取者ハ學生ニ準ズルモノトス |
| 第五次 | 八月二十日 | | 九 | 八 | 一〇 | 三 | | |
| 第六次 | 十月五日 | | 九 | 八 | 一〇 | 三 | | |

四 講習指導官
 横須賀海軍航空隊司令

五 報告
 海軍練習航空隊規則第五條第二項ニ依ルノ外海軍航空本部長ニ送付スベシ

官房人機密第二〇六九號
 左ニ依リ昭和十九年九月一日任官ノ海軍生徒出身各科少尉ノ考課表ヲ調製進達スベシ
 昭和十九年十二月三十日

調製期日 昭和十九年十二月二十五日
 任用進級候補名簿調製官ニ進達期限 昭和二十年一月五日
 海軍大臣 一月二十日

官房機密第七號
 昭和二十年一月二日

海軍省構内各廳長殿

海軍省本廳、同分室公用使發差内規ノ件通牒
首題ノ件左ノ通定メラレ來一月八日ヨリ之ヲ實施セシメラレ候
追テ昭和十九年三月官房第一六〇號ハ之ヲ廢止セラレ候

海軍省本廳、同分室公用使發差内規

第一條 海軍省本廳構内各廳(本内規中本廳ト稱ス)、海軍省分
室構内各廳(本内規中分室ト稱ス)間及分室相互間ニ往復ス
ル文書ハ已ムヲ得ザルモノノ外總テ本内規ニ規定スル公用使
ニ依リ之ヲ送達交換スルモノトス

第二條 公用使ノ往來ハ定期自動車便(以下定期便ト稱ス)ア
ル分室ニ在リテハ定期便ニ依ルモノトシ其ノ他ノ分室ニ在リ
テハ適宜ノ交通機關ニ依ル

第三條 公用使發着場所ヲ本廳ニ在リテハ大臣官房、分室ニ在
リテハ内務主任ノ定ムル所トス

第四條 本廳構内大臣官房及分室ニ文書交換棚ヲ置ク

第五條 送達ヲ要スル文書ハ各廳ニ於テ送達簿(送達先各廳毎
ニ別冊トシ文書ノ離脱セザル如ク固縛スルモノトス)ヲ附シ
之ヲ當該文書交換棚ニ收ムルモノトス

第六條 公用使ハ左腕ニ別圖ノ如キ標識ヲ附シ送達文書ノ授受
ニ當リテハ五ニ身分證明書ヲ提示シ公用使タルコトヲ確認ス
ベシ

第七條 公用使ハ送達書類ヲ公用靴又ハ書類籠ニ收メ確實ニ鎖

鑰ヲ爲シテ運送スルモノトス

第八條 定期便ニ依ル公用使ノ發差區分、送達文書ノ授受等ハ
左ノ各號ニ依ル

一 公用使ハ定期便毎ニ左ノ區分ニ依リ之ヲ發差ス但シ各定
期便毎ニ公用使ノ往復ヲ要セザル分室ニ於テハ當該分室内
務主任ハ海軍省副官ト協議ノ上特定ノ定期便ノミニ付公用
使ヲ發差スルコトヲ得

大臣官房

定期便乗車專務ノ公用使

分室、同最寄定期便停留場間ノ公用使 當該分室
二 公用使ハ送達文書ニ送達簿ヲ附シタル儘停留場ニ於テ之
ガ授受ヲ行フ

三 文書交換棚使用時間ハ本廳ニ在リテハ定期便初發時、分
室ニ在リテハ内務主任ノ定ムル公用使初發時ノ各三十分
前ヨリ最終定期便ニ依ル公用使歸還時刻十五分後迄トシ各
廳ハ公用使到達時刻毎ニ公用使發着場所ニ受領人ヲ派遣シ
送達簿ニ捺印ノ上到達文書ヲ受領シ送達簿ハ當該差出廳文
書交換棚ニ收ムルモノトス

第九條 定期便ニ依ラザル分室ノ公用使ハ分室ヨリ之ヲ發差シ
送達文書ノ授受等ニ付テハ前條ノ規定ヲ準用スルノ外分室内
務主任ノ定ムル所ニ依ル
(別圖添)

海人第一二號ノ一四五

昭和十九年十二月三十日

海軍省人事局

部内各廳御中

現役海軍士官名簿電報符改定ノ件通知

海軍主計見習尉官ニ對スル電報符ハ本年十二月二十四日之ヲ廢止シ十二月二十五日任用海軍主計少尉及海軍主計見習尉官ニ對スル電報符ヲ左記ノ通改定セラレ候

記

海軍主計少尉一方非卓藏ヲ「二七一八」海軍主計見習尉官小

泉喜與士ヲ「三二五八」トシ各任命順序ニ從ヒ相當番號ヲ附與シ「二七一六」ヲ缺番號トス

○雜款

○司令掃海艇變更

第四十三掃海隊司令八十月十一日司令掃海艇ヲちとせ丸ニ變更セリ

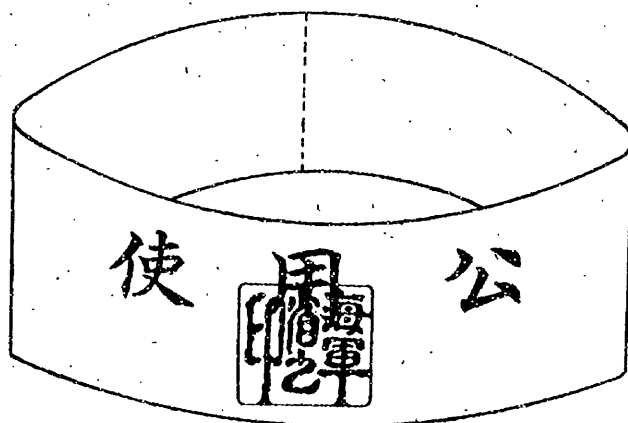
(第四十三掃海隊)

合同海軍葬儀執行

| 期日及時刻 | 大東亞戰爭戰歿者 | 喪葬管理者 | 場所 | 記事 |
|-------------|----------------|-------------|-----------|----|
| 一月十一日 一三〇〇 | 故海軍中佐佐々木 榮外諸勇士 | 熊本地方海軍人事部長 | 熊本市公會堂 | 佛式 |
| 一月十二日 一三〇〇 | 故海軍少佐土井幸夫外諸勇士 | 仙臺地方海軍人事部長 | 仙臺市東本願寺 | 同 |
| 一月十八日 一〇〇〇 | 故海軍中將梶岡定道外諸勇士 | 橫須賀海軍人事部長 | 橫須賀市海軍靈安所 | 同 |
| 一月二十日 一〇三〇 | 故海軍少佐遠藤雅雄外諸勇士 | 盛岡地方海軍人事部長 | 盛岡市縣公會堂 | 同 |
| 一月二十七日 一一〇〇 | 故海軍大佐梶貝襄治外諸勇士 | 宇都宮地方海軍人事部長 | 宇都宮市縣教育會館 | 同 |
| 一月二十七日 一一三〇 | 故海軍少將中島四郎外諸勇士 | 靜岡地方海軍人事部長 | 靜岡市市公會堂 | 同 |
| 一月二十七日 一二三〇 | 故海軍大佐土橋豪實外諸勇士 | 長野地方海軍人事部長 | 長野縣春閣 | 同 |

○本日海軍公報發行セズ

(官房機密第七號別圖)



一 本標識ハ各分室毎ニ作製(海軍省印ハ海軍省副官ニ提示シ其ノ捺印ヲ受

ク)スルモノトス

二 寸法ハ適宜トス

三 地ハ白布字ハ黒書ス

(昭和二十年一月四日祕海軍公報)

1592

(内令第一三三八號別表)

船舶救難本部定員表

(昭和二十年一月四日祕海軍公報)

| | | | | | | | | | | | | | | | |
|--------------------------------|------------------------|--|-----------------------------|------------------------------|-----------------------------|-----------------------|---------------------------|------------------|-----------------------|----------------|-------------|-------------|-------------|-------------|----------------|
| 考 備 | 計 | | 附 | 副部 部 會計部長 總務部長 長 | 部 員 | 部 員 | 主計部長 主計大 主計中 主計佐 | 兵 科 佐 官 | 軍 醫 科 尉 官 | 主計科 佐尉 官 | 中 少 將 | 大 佐 | 中 佐 | 一 一 一 | |
| | 特 務 士 官 六人 | 士 官 二十六人 内兼務七人 | | | | | | | | | | | | | 中 少 尉(水) |
| 一 本表ノ外必要ニ應ジ附トシテ軍屬其ノ他ノ人員ヲ置クコトヲ得 | 二 特修兵ハ適宜トス | 三 本表ノ外必要ニ應ジ部員トシテ陸軍佐尉官及運輸通信省高等文官ヲ置クコトヲ得 | 水 衛 主計 兵 兵 兵 | 書 記 | 兵 衛 主計 兵 曹 曹 | 兵 生 兵 曹 曹 | 兵 曹 曹 | 兵 曹 曹 | 兵 曹 曹 | 兵 曹 曹 | 兵 曹 曹 | 兵 曹 曹 | 兵 曹 曹 | 兵 曹 曹 | 兵 曹 曹 |
| | | | 十六 四 六 | 五 | 五 一 五 | 一 一 一 | 一 一 一 | 一 一 一 | 一 一 一 | 一 一 一 | 一 一 一 | 一 一 一 | 一 一 一 | 一 一 一 | 一 一 一 |

秘

海軍公報 第四八九五號

昭和二十年一月六日(土)

海軍大臣 澤村 謙

○令 達

官房教機密第三號

海軍豫備學生教育綱領中左ノ通改正ス

昭和二十年一月二日

海軍大臣

第八條 海軍對潛學校術科教程ニ於ケル教育ハ主トシテ對潛艦艇乗組、防備衛所長(乙)(丙)又ハ水測兵器整備關係初級兵科豫備將校トシテ必要ナル素養ヲ得シムルヲ目的トシ豫備學生ヲ艦艇班、衛所班及水測兵器班ニ分チ各班ニ於テ課スベキ教科目左ノ如シ

一 艦艇班

| 本 | 科目 | 項目 | | 記事 |
|-----|----|--------------------------|--|----|
| | | 對潛術 | 射擊 | |
| 機雷術 | 水測 | 機雷ノ大要、敷設法ノ大要、電測關係電氣兵器ノ大要 | 爆雷及射擊裝置ノ大要、射擊理論ノ大要、射擊計法ノ大要、射擊指揮法ノ大要、射擊指揮法ノ大要、射擊指揮法ノ大要、射擊指揮法ノ大要 | |
| 敷設 | 水測 | 機雷ノ大要、敷設法ノ大要、電測關係電氣兵器ノ大要 | 爆雷及射擊裝置ノ大要、射擊理論ノ大要、射擊計法ノ大要、射擊指揮法ノ大要、射擊指揮法ノ大要、射擊指揮法ノ大要、射擊指揮法ノ大要 | |
| 兵器 | 射擊 | 機雷ノ大要、敷設法ノ大要、電測關係電氣兵器ノ大要 | 爆雷及射擊裝置ノ大要、射擊理論ノ大要、射擊計法ノ大要、射擊指揮法ノ大要、射擊指揮法ノ大要、射擊指揮法ノ大要、射擊指揮法ノ大要 | |

| | | | | | | | | | | | | | | |
|---------|------------------|----------------------------|--------------------|----------|--------------|---------------|----------------------|-----|-----|--------------------------------------|-------|---------|---------------------------|---------------------------|
| 機雷術 | 電測術 | 通信術 | 砲術 | 航空術 | 潜水術 | 運用術 | 航海術 | | | 職務 | 機雷戰術 | 對潛戰術 | 爆破 | 掃海 |
| | | | | | | | 氣象 | 見張 | 信號 | | | | | |
| 軍用機關ノ大要 | 電測兵器ノ大要、電測指揮法ノ大要 | 通信兵器ノ大要、通信要務、通信法ノ大要、暗號作製翻譯 | 砲空兵器ノ大要、對空射擊指揮法ノ大要 | 性能、對潛哨戒法 | 性能、襲撃法、局地哨戒法 | 各種應急處置法、造船ノ大要 | 氣象兵器ノ大要、天氣圖作製法、天氣豫察法 | 見張法 | 信號法 | 航海兵器、操舵裝置、水路圖ノ大要、航海諸規則、天文學ノ大要、海洋學ノ大要 | 職務ノ大要 | 機雷戰術ノ大要 | 對潛水雷戰ノ大要、海上水雷戰ノ大要、對潛雷戰ノ大要 | 掃海兵器ノ大要、掃海具操法ノ大要、掃海具操法ノ大要 |

20.1.6
校 交

祕海軍公報 第四八九五號 昭和二十年一月六日

三 水測兵器班

| 科 | 本 | | | | | | | | | | | |
|---|------------------|-------------------------------------|---------------------|----------------|------------------|---------|-------|----------------|--------|--------|--------------|----------------|
| | 射法 | | 水測 | | 發射 | | 機雷 | | 戰術 | | 航空 | |
| | 射法 | 水測 | 發射 | 機雷 | 戰術 | 航空 | 戰術 | 機雷 | 發射 | 水測 | 射法 | |
| 日 | 射法ノ大要、射法實習見學 | 水測理論ノ大要、水測法、水測指揮法、發射管制法、水測實習、發射管制實習 | 發射管制法ノ大要、水測操法、發射管制法 | 機雷兵器ノ大要、水測指揮裝置 | 機雷兵器ノ大要、防潜掃兵器ノ大要 | 掃海兵器ノ大要 | 爆藥ノ大要 | 對潜水艦戰ノ大要、戰務ノ大要 | 信號法ノ大要 | 航空機ノ大要 | 性能、襲撃法、局地哨戒法 | 數學、電氣磁氣學、電氣音響學 |
| 項 | 軍隊教育、指揮統率法 | | | | | | | | | | | |
| 日 | 分隊士及常直勤務ニ必要ナル諸要務 | | | | | | | | | | | |
| 記 | 諸要務 | | | | | | | | | | | |
| 事 | 諸法規 | | | | | | | | | | | |
| | 職務ノ大要 | | | | | | | | | | | |
| | 武技、體技、體操 | | | | | | | | | | | |

| | |
|---|-------------|
| 科補 | 艦艇班ニ同シ |
| (參照) | 內令提要卷二、四八五頁 |
| ○通牒 | |
| 兵備四機密第五〇〇號ノ六 | |
| 昭和二十年一月二日 | |
| 關係各總長殿 | 海軍省兵備局長 |
| 陸軍戰時召集延期實施要領(一般用)中改正ノ件通知 | |
| 昭和十九年兵備四機密第五〇〇號ノ四ヲ以テ首題ノ件通知(昭和十九年十二月十六日祕海軍公報參照)致候處今般更ニ左記ノ通知正セラレタル旨陸軍省ヨリ通知有之候條可然取計相成度 | |
| 記 | |
| 第五號中「又ハ不正」ヲ削ル | |
| 第八號第二項1ヲ左ノ通知ム | |
| 1. 充足、變更ヲ實施スルニ方リテハ既配當ノ役種ノ區分ハ適用セサルモノトス | |
| 別紙第十二ヲ別紙ノ通知ム | |
| (別紙添) | |
| 海人三第二號 | |
| 昭和二十年一月二日 | |

祕海軍公報 第四八九五號 昭和二十年一月六日

海軍省人事局長

關係各廳長殿

兵役法施行規則第五十條ノ四ノ地域ニ在ル者
 中現ニ海軍部隊ニ勤務シアル者ノ召集ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ左記ノ通海陸軍協議濟ニ付了知相成度
 追テ昭和十九年海人三第二號ノ六二ハ自然消滅ノ義ト了知相成度

記

一 兵役法施行規則第五十條ノ四ノ地域ニ在ル陸軍在郷軍人中
 現ニ海軍部隊ニ勤務シアル者ヲ兵役法施行令第十八條又ハ陸軍召集規則第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ陸軍部隊ニ召集スル場合ニ於テ現地ニ於ケル海軍最高指揮官ヨリ希望アリタルトキハ其ノ召集ニ關シ斟酌スルモノトス

二 兵役法施行規則第五十條ノ規定ニ依リ兵籍ニ編入セラレタル者中現ニ海軍部隊ニ勤務シアル者ヲ兵役法施行令第十八條又ハ陸軍召集規則第二十五條ノ二ノ規定ニ依リ召集スル場合ニ於テ現地ニ於ケル海軍最高指揮官ヨリ之ヲ海軍ノ部隊ニ召集方希望アリタルトキハ原則トシテ之ニ副フモノトス

(諸例則卷二、六六〇頁参照)

○雜款

○携帶給與通牒發行方勵行ノ件

最近内地ヨリ作戰空輸等ノ爲臺灣各基地ニ進出スル部隊激増スル處之等ノ内ニハ數ヶ月モ供給其ノ他諸給與ノ支給ヲ受ケズ手持金漸次缺乏シ酒保代金ノ支拂ニモ困窮スルモノ相當多數アリ而モ携帶給與通牒モ携行シ居ラザル爲便宜ヲ供與セントスルモ手段ナキ狀況ニ付内地出發前ニ必ズ携帶給與通牒ヲ發行シ之ヲ携行セシムルカ若シクハ三ヶ月以内ノ俸給前渡スル等ノ處置ヲ勵行セラレ度
 (第十四聯合航空隊主計長)

○休養所設置

四日市海軍船舶警戒隊員休養所ヲ昨年十二月一日四日市市濱田幸町一七五七番地市役所前ニ設置セリ
 (横須賀海軍運輸部四日市支部)

○事務開始

| 事務所名 | 設置場所 | 事務開始月日 | 電話 | 記事 |
|---------------|--------------------|--------|----|----------|
| 佐世保海軍軍需部鹿兒島支部 | 鹿兒島市堀江町一〇 | 三月六日 | | |
| 第百六十九防空隊殘務整理班 | 木更津航空基地敷付ウ四五〇ウ二二三内 | 三月六日 | | 九月二十日解隊 |
| 第百二十二防空隊殘務整理班 | 同 | 同 | 右 | 十二月二十日解隊 |
| 編綴寫眞裝具事務 | 横須賀海軍工廠内 | 三月七日 | | |
| 第二十一衛隊隊殘務整理班 | 第二十五警備隊内 | 三月七日 | | |

本日軍機秘海軍公報第五八號(甲配付)發行セリ

(兵備四機密第五〇〇號ノ六別紙)

(昭和二十年一月六日秘海軍公報)

工部局
等場
所及
地名
及在
業務種別名

何師管何聯隊區管内在籍准士官、下士官、兵戰時
召集延期(候補)者充足(變更)名簿

調製 年 月 日

| | | | |
|--------------|--------------------------------------|----------------|-------|
| 5561 | 4560 | 號番連一 | 業務種別名 |
| 乙 | 甲 | 別種度要 | |
| 10/25 | 10/160 | 位順票重 | |
| (六、五、一〇〇) | 一〇、〇五 | 從業年月 (經驗年月) | |
| 何 | 何 | 現官(職) | |
| 補 一 | 豫 | 種 役 | |
| 二、〇五 | 三、一〇〇 | (現役年月) | |
| | 〇 | 歸還 者ノ部官種 | |
| 兵 輔 | 軍 步 | 當否 等級 | |
| 昭一四 | 昭一三 (昭一五) | (任官年) | |
| 何 | 何 | 本籍地 | |
| 何 | 何 | 氏 名 | |
| 某 | 某 | 充足 (變更) | |
| 5561 6300 | 甲 國京 10 步都 160 一 津 何 某 4560 | | |

調製上ノ注意

- 一 本名簿ハ要領第八號ニ依ル戰時召集延期(候補)者ノ充足又ハ變更ヲ實施スル場合ニ於テ使用スルモノトス
 - 二 本名簿ハ佐尉官、准士官、下士官、兵ニ付本籍地所管各聯隊區毎ニ別紙ニ調製スルモノトス
 - 三 本名簿調製ニ方リテハ左ノ各號ニ依ルノ外別紙第四ニ準スルモノトス
 - 1 一連番號、要度種別、重要順位ノ欄
 - イ 戰時召集延期候補者ヲ充足スル場合
 - 配當數中剩餘ニ應スル人員數ヲ充足スル場合ニ於ケル一連番號ハ既申請者ニ附シアル番號ニ次テ配當數ニ充ツル迄逐次附スルモノトシ重要順位ハ既配當ノ要度種別毎ニ充足セントスル總人員ヲ分母トシ其ノ人員中ニ於ケル軍要、應召、不正、不明トナリタル人員ヲ充足スル爲既申請者ヲ削除スル場合及戰時召集延期者ヲ變更スル場合ニ於ケル一連番號、要度種別、重要順位ハ削除セシ者ニ附シアルモノヲ其ノ儘使用スルモノトス
 - ロ 戰時召集延期者ヲ變更セントスル場合
 - 軍要、應召、不正、不明トナリタル人員ヲ充足スル場合及戰時召集延期者ヲ變更スル場合當該當者ノ師管、充足(變更)事由ノ欄
 - イ 軍要、應召、不正、不明トナリタル人員ヲ充足スル場合及戰時召集延期者ヲ變更スル場合當該當者ノ師管、聯隊區、役種、兵種部、官等級、一連番號、要度種別、重要順位、氏名ヲ記載スルモノトス
 - ロ 配當數中剩餘ニ應スル人員數ヲ充足スル場合ハ配當數ヲ分母トシ充足スヘキ者ニ附スヘキ一連番號ヲ分子トシ記載スルモノトス
 - イ 戰時召集延期候補者ヲ充足スル場合
 - 配當數中剩餘ニ應スル人員數ヲ充足スル場合及戰時召集延期者ヲ變更スル場合當該當者ノ師管、充足(變更)事由ノ欄
 - イ 軍要、應召、不正、不明トナリタル人員ヲ充足スル場合及戰時召集延期者ヲ變更スル場合當該當者ノ師管、聯隊區、役種、兵種部、官等級、一連番號、要度種別、重要順位、氏名ヲ記載スルモノトス
 - ロ 配當數中剩餘ニ應スル人員數ヲ充足スル場合ハ配當數ヲ分母トシ充足スヘキ者ニ附スヘキ一連番號ヲ分子トシ記載スルモノトス
- (記載例ハ前者ニ在リテハ軍要、應召、不正、不明トナリタル人員ヲ充足スル場合及戰時召集延期者ヲ變更スル場合ノ一例トシ後者ニ在リテハ配當數中剩餘ニ應スル人員數ヲ充足スル場合ニ於ケル一例トス)

秘

海軍公報

第四八九六號

海軍大臣官房

昭和二十年一月七日(日)

○令 達

内令第一三九三號

第二百十五號海防艦

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

海防艦 宇 久

佐世保鎮守府在籍

第二百十五號海防艦

右警備海防艦ト定メラル

第十七號輸送艦

第十八號輸送艦

右本籍ヲ舞鶴鎮守府ト定メラル

昭和十九年十二月三十日

海軍大臣

内令第一三九四號

第八十二號海防艦

第八十四號海防艦

右本籍ヲ吳鎮守府ト定メラル

海防艦 竹 生

右本籍ヲ佐世保鎮守府ト定メラル

吳鎮守府在籍

第八十二號海防艦

第八十四號海防艦

佐世保鎮守府在籍

海防艦 竹 生

右警備海防艦ト定メラル

第十六號輸送艦

右本籍ヲ横須賀鎮守府ト定メラル

昭和十九年十二月三十一日

海軍大臣

内令第一三九五號

輸送隊編制中左ノ通改定セラル

昭和十九年十二月三十一日

海軍大臣

第二輸送隊ノ項中「第十三號、」ノ下ニ「第十六號、」ヲ加フ

(内令提要卷一、七四頁参照)

内令第九六號

昭和十一年内令兵第四五號中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月三十日

海軍大臣

秘海軍公報 第四八九六號 昭和二十年一月七日

一五

1599

第一項(二)呼稱番號區分中追濱海軍航空隊ノ項ヲ削ル
附則

本令ハ昭和十九年十二月二十日ヨリ之ヲ適用ス

(參照)〔昭和十一年內令兵第四五號ハ航空機番號付與法及其ノ表示
方ノ件ナリ(內令提要卷三、二二六ノ四ノ四頁)〕

官房經機密第四號

損害補償及慰藉內規中左ノ通改正ス

昭和二十年一月五日

海軍大臣

第十一條 本內規ハ防空警報發令中海軍ノ艦船、航空機等ノ軍
事行動ニ因リ第三者ニ加ヘタル損害ニ付テハ特ニ定ムルモノ
ヲ除クノ外之ヲ適用セズ

(註) 本條ニ該當スル場合ハ戰時災害保護法ノ適用ヲ受クベ
キモノナリ

○通牒

官房機密第一三四號ノ二二

昭和二十年一月一日

海軍省副官

關係各廳長殿

暗號圖書配給及處分ニ關スル件申進

首題ノ件ニ關シテハ別ニ特令セラザルモノヲ除キ別冊暗號圖書

現狀表第四三號ニ依リ處理相成度

(別冊ハ所要ノ向ニノミ之ヲ配付ス)

海人機密第八號ノ六三

昭和十九年十二月二十三日

海軍省人事局長
海軍省醫務局長

各鎮守府參謀長殿

兵役免除ノ制限ニ關スル件通牒中改正ノ件通牒

本年海人機密第八號ノ一八(內令提要卷二、六頁ノ三參照)中
左記ノ通改正セラレ候條了知相成度

記

第二號第二項及第三號ノ但書中「搭乘整備員」ヲ「掌整備員及
掌航空兵器兵」ニ改ム

海人三機密第三號ノ三二

昭和二十年一月四日

海軍省人事局長

各鎮守府參謀長
關係各所轄長)殿

現役復歸ノ特務士官、准士官ノ列序ニ關スル
件申進

海軍武官服役臨時特例第二條第一項ノ規定ニ依リ現役ニ復歸セ
シメラレタル特務士官及准士官ノ同官階ノ現役特務士官、准士
官名簿上ノ列序ニ關シテハ左記ニ依ル義了知相成度

記

一 同日任用進級者ニ付テハ任用進級辭令公報掲載ノ順位ニ依ル
 二 任用進級ノ日ヲ異ニスル者ニ付テハ従前ノ役種並ニ勤務日數ノ如何ニ拘ラズ現官任用進級ノ先後ニ依ル

海人一第九號ノ一

昭和二十年一月六日

海軍省人事局長

關係各所轄長殿

豫備士官專修科目變更ノ件通知

左記ノ者ハ孰モ昭和十九年十二月十五日附專修科目ヲ變更セラレ候

記

| 官等 | 氏名 | 專修別 | | 電報符 | |
|----|-------|-------|-------|--------|--------|
| | | 舊 | 新 | 舊 | 新 |
| 中尉 | 森 定良 | 通信班 | 兵器整備班 | ヨツ三〇三三 | ヨハ三〇三三 |
| 少尉 | 田中 政孝 | 飛行要務班 | 飛行班 | ヨハ二五五五 | ヨヒ四一九一 |

教育機密第四四三號

昭和十九年十二月二十七日

海軍省教育局長
海軍航空本部長

横須賀、吳鎮守府參謀長
關係各學校長殿

秘海軍公報 第四八九六號

昭和二十年一月七日

海上交通保護關係事項教育研究ニ關スル件申進
 首題ノ件左記ノ通定メラレ候條可然實施相成度
 追テ昭和十八年六月十六日教育機密第一七一號ハ廢止セラレ候

記

| 學校名 | 教育研究項目 |
|------------------------|---|
| 海軍大學校 (教育中止中海軍對潛學校) | 海上交通保護關係作戦用兵事項 一 海上交通保護關係ノ綜合 二 海上交通保護制度 三 海上交通保護要務 四 護衛實施法 五 對潛攻撃 六 艦艇ト航空機トノ協同法 |
| 海軍對潛學校 | |
| 横須賀海軍航空隊 | 航空機ノ船圍護衛並ニ對潛攻撃 |
| 海軍航海學校 | 信號、見張、航海、運動、保安、應急 |
| 横須賀海軍砲術學校 | 射撃 |
| 横須賀海軍通信學校 | 通信 |
| 海軍電測學校 | 電測 |
| 海軍工機學校 | 機關取扱 |
| 海軍潜水學校 | 潜水艦ヨリ見タル對潛攻撃、回避 |
| 備考 | 關係各部ハ相互連絡ヲ密接ニスルモノトス |

(參照) 内令提要卷二、五六二頁

一七

○感 狀

感 狀

伊號第五十六潜水艦

昭和十九年十月中下旬菲島東方海面ニ於テ作戦中勇猛果敢ナル作戦行動ニ依リ克ク敵船團及機動部隊ヲ捕提シ二十四日輸送船大型一隻中型三隻ヲ轟撃沈シ更ニ二十五日大型航空母艦一隻及驅逐艦一隻ニ對シ肉薄攻撃ヲ敢行シ之ヲ撃沈シタルハ其ノ功績顯著ナリト認ム
仍テ茲ニ感狀ヲ授與ス

昭和十九年十二月十六日

聯合艦隊司令長官 豊田 副武

○雜 款

○銓衡試験問題發送

昭和十九年度後期

高等科潜、航術
普通科潜、航術
水雷操縦
内火機
電機
水雷機
内火機

特技章付與銓衡試験問題

(試験期日 昭和二十年一月十日)

右昨年十二月二十日左記ノ通發送済未着又ハ別ニ必要ノ向ハ最寄海軍人事部又ハ警備府若ハ海軍潜水學校へ至急通知相成度

記

- 一 單獨試験實施豫定ノ各部ニハ直送
- 一 聯合試験用ハ各海軍人事部各警備府宛送付
- 一 行動豫定變更其ノ他ノ理由ニ依リ單獨實施用トシテ若干前記各部ニ送付

(海軍潜水學校)

昭和二十年二月第四期海軍下士官候補者銓衡試験(昭和二十年二月一日施行)問題ハ一月一日附各艦隊、鎮守府、警備府、練習聯合航空總隊、海上護衛總司令部及海軍經理學校宛發送済未着又ハ別ニ所要ノ向ハ海軍省教育局ニ請求相成度

(海軍省教育局)

○事務開始

| 事務所名 | 設置場所 | 事務開始日 | 電話 | 記事 |
|--------------------|---------------------------|-------|----|---------|
| 第十四聯合航空隊司令部殘務整理事務所 | 臺南航空基地内 | 三月一日 | | |
| 第三千二百一十一設營隊 | 佐世保海軍施設部第三課内 | 三月三日 | | |
| 第七十七號海防艦艇裝具事務所 | 横濱市鶴見區辨天町一七日本鋼管株式會社鶴見造船所内 | 三月三日 | | |
| 聯送艦艇裝具事務所 | 横須賀海軍工廠内 | 三月六日 | | |
| 第三百十六設營隊 | 宮崎縣宮崎市 | 三月六日 | | 三月六日移轉付 |

秘

海軍公報

第四八九七號

昭和二十年一月八日(月)

海軍大臣官房

○令 達

官房教機密第五號

左表ニ依リ昭和十八年官房教機密第四一號ニ依ル艦艇長任命前ノ兵科豫備將校講習ヲ施行ス

昭和二十年一月四日

海軍大臣 臣

| | | |
|--|--------------------|--------------------------|
| 講習場所 | 講 習 員 數 | 講 習 期 間 |
| 海軍對潛學校 (海軍少佐、海軍大尉、海軍中尉、海軍少佐、海軍大尉、海軍中尉、海軍少佐、海軍大尉、海軍中尉) | 約十名 | 自昭和二十年一月四日 至昭和二十年三月四日 |
| 備 考 | 講習員ハ講習期間中海軍對潛學校附トス | |

官房入機密第六號

當分ノ内召集中ノ海軍ノ飛行科又ハ整備科ノ豫備准士官又ハ豫備下士官ニシテ海軍豫備員ヨリスル海軍武官任用等特例ニ依リ現役ノ武官クランコトヲ志願スルモノノ出願範圍並ニ願書及考課表ノ進達期日等ニ關シ左ノ通定ム

昭和二十年一月六日

海軍大臣 臣

- 一 志願者ノ範圍
- (イ) 召集中ノ海軍ノ飛行科又ハ整備科ノ豫備准士官又ハ豫備下士官タル者

秘海軍公報 第四八九七號 昭和二十年一月八日

(ロ) 海軍豫備練習生タル者ニシテ第三號ノ任用期日迄ニ同課程ヲ修業シ豫備下士官ニ任用ノ見込アルモノ

二 願書及考課表進達期限

毎年二月十五日及八月十五日

三 任用期日

毎年五月一日及十一月一日

四 雜 件

現役ノ准士官又ハ下士官ニ任用セラレタル者ノ任用進級ニ必要ナル實役停年及増俸停年ニ關シテハ各其ノ豫備准士官又ハ豫備下士官トシテ召集中ノ日數ヲ通算ス

官房經機密第五號

昭和十九年官房經機密第三七九號艦隊以外ノ艦船ノ經費ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和二十年一月六日

海軍大臣 臣

「艦船」ノ下ニ「又ハ航空隊」ヲ加フ

附 則

本令ハ昭和二十年一月一日ヨリ之ヲ適用ス

(參照) 海軍機密會計法規類集八頁

○通 牒

經豫機密第三號ノ一

昭和二十年一月六日

海軍省 經理局長

關係各支出官殿

航空隊ノ經費ニ關スル件通牒

今般官房經機密第五號ヲ以テ艦隊以外ノ航空隊(司令部ヲ含ム)ノ經費ニ付テモ之ヲ艦隊經費支辨ト爲シ得ルコトト相成候處本件ハ常時移動性ニ富ミ眞ニ事情止ムヲ得ザルモノニノミ之ヲ適用シ得ル趣旨ヲ以テ發令セラレタルモノニ有之候條可然取計相成度

經豫第三號ノ二

昭和二十年一月六日

海軍省 經理局長

關係各支出官、資金前渡官更殿

政府ヨリ恩給ヲ受クル者ニ召集中支給スル手當ノ支辨科目ニ關スル件通牒

明治三十八年勅令第七十九號ニ依ル首題手當ハ左記ノ通ト了知相成度

記

臨時軍事實費特別會計

臨時軍事實費(款、項)、雜給及雜費、諸手當

海軍火藥廠作業會計

海軍火藥廠作業費、作業費、諸給與、雜給

海軍燃料廠作業會計

海軍燃料廠作業費、作業費、諸給與、雜給

(參照) 海軍會計法規類集二卷七九七頁

航本機密第六〇號

昭和二十年一月六日

海軍航空本部 總務部長

關係各廳長 殿

航空發動機名稱ノ件通知

性能、構造、裝備、補機ノ小變更ニ伴ヒ各種發動機名稱左ノ如ク定メラレ候條了知相成度

| 發動機名稱 | 說明 | 備考 |
|------------|--------------------------------|---------------------|
| 天風發動機 一甲型 | 「キユノ」式油濾器ヲ裝備セザルモノ | 十月三十一日航本機密第一三四三八號參照 |
| 天風發動機 一乙型 | 「キユノ」式油濾器ヲ裝備セルモノ | 現在實験中近ク生産ノ豫定 |
| 榮發動機 三一型 | 榮二型ニ「メタノール」噴射ヲ行ヒ性能向上セルモノ | 現在生産中 |
| 榮發動機 三一甲型 | 構造上榮三一型ト爲シア「メタノール」ニ噴射ヲ實施シ非ザルモノ | 現在生産中 |
| 榮發動機 三一乙型 | 三一甲型ノ過給器驅動商車ノ増速比榮二型ト同等ナルモノ | 三菱製零機ニ少數裝備シアリ現在生産セズ |
| 榮發動機 三一丙型 | 三一乙型ニ「メタノール」噴射ヲ實施スルモノ | 現在ナシ |
| 火星發動機 二二甲型 | 火星二型ヲ噴射式トセルモノ | 二式飛行艇ニ裝備 |
| 火星發動機 二三甲型 | 火星二三型ノ充電用發電機ヲ大型トセルモノ | 實験中 |
| 火星發動機 二三甲型 | 火星二三型ノ充電用發電機ヲ大型トセルモノ | 實験中 |

| | | | |
|-------|------|--|-------------------|
| 火星發動機 | 二三乙型 | 火星二三甲型ヲ排氣ノダ ナラシメタルモノ | 假稱雷電三二型ニ 裝備生産中 |
| 火星發動機 | 二三丙型 | 火星二三乙型ノ冷却送風 機ヲ大型トセルモノ | |
| 火星發動機 | 二五甲型 | 火星二五型ノ高壓油ポン プヲ五二型トセルモノ | 試製橋光ニ裝備 |
| 火星發動機 | 二五乙型 | 火星二五型ヲ噴射式トセ ルモノ | 飛行實驗中 |
| 火星發動機 | 二五丙型 | 火星二五甲型ヲ噴射式ト セルモノ | 飛行實驗中 |
| 火星發動機 | 二六型 | 火星二三甲型ノ減速比ヲ 〇・六二五ニ變更シ高度 性能ヲ向上セルモノ | 實驗終了 |
| 火星發動機 | 二六甲型 | 火星二六型ノ減速裝置ヲ 差當リ火星二三甲型ト同 一トセルモノ | 雷電三三型ニ裝備 生産中 |
| 火星發動機 | 二七型 | 火星二五型ノ高度性能ヲ 向上セルモノ | 實驗終了 |
| 譽發動機 | 一二型 | 譽一型ノ過給器ヲ二一 型ト共通トセルモノ | 銀河、流星ニ裝備 生産中 |
| 譽發動機 | 二一型 | 譽一型ノ性能ヲ向上セ ルモノ | 紫電、彩雲ニ裝備 生産中 |
| 譽發動機 | 二一甲型 | 譽二一型ノ「シリンドラ」冠 ヲ砂型ニテ製作シ差當リ 譽一二型ノ性能ニ制限使 用スルモノ | 銀河、流星ニ裝備 生産準備中 |
| 譽發動機 | 二三型 | 譽二一型ヲ低壓燃料噴射 式トセルモノ | 飛行實驗中 |
| 譽發動機 | 二四型 | 譽二一型ノ減速比ヲ〇・ 四二ニ變更シ低壓燃料 噴射式トセルモノ | 審査中 |

○雜 款

○基地移轉

佐世保潜水艦基地隊ハ昨年十二月二十六日舊日字福石海軍射的

秘海軍公報 第四八九七號 昭和二十年一月八日

場跡ニ移轉セリ
電話 (鎮守府交換) 三〇七三 (隊内交換)

秘海軍公報 第四八九七號 昭和二十年一月八日

| | | | |
|----------------|------------|------|------|
| 領海軍航空隊殘務整理班 | 第九五一領海派遣隊内 | 三月五日 | 三月五日 |
| 第四五三海軍航空隊殘務整理班 | 第九五一指宿派遣隊内 | 同 | 同右 |
| 第二五六海軍航空隊殘務整理班 | 第九五一上海派遣隊内 | 同 | 同右 |
| 沖繩海軍航空隊殘務整理班 | 第九五一小祿派遣隊内 | 同 | 同右 |

合同海軍葬儀執行

| 期日及時刻 | 大東亞戰爭戰歿者 |
|------------|----------------|
| 一月十三日 〇九〇〇 | 故海軍大佐大迫 東外諸勇 |
| 一月十三日 一〇〇〇 | 故海軍軍醫中佐早川貞雄外諸士 |
| 一月十六日 〇九三〇 | 故海軍少將高島三治外諸勇 |
| 一月十九日 〇九三〇 | 故海軍少佐藤澤茂雄外諸勇 |

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報

第四八九八號

昭和二十年一月九日(火)

海軍大臣官房

(本紙下引換前紙ハ廢却相成度)

○令 達

内令第一三八五號

第二百二十號驅潛特務艇

右本籍ヲ吳鎮守府ト定ム

昭和十九年十二月二十八日

海軍大臣

内令第一三八七號

昭和十八年内令第一八三三號別表中左ノ通改正ス

昭和十九年十二月二十八日

海軍大臣

第十六警備隊ノ項驅潛特務艇ノ欄「第六十七號(鎮)」ノ次ニ

「第二百二十號(吳)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ一九頁参照)

内令第一號

昭和十八年内令第一一號航空基地管理ニ關スル件申左ノ通改正ス

昭和二十年一月一日

海軍大臣

「第九五三海軍航空隊」ヲ「第九〇一海軍航空隊」ニ改ム

(内令提要卷一、三〇ノ四一頁参照)

内令第二號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改正セラル

昭和二十年一月一日

海軍大臣

吳鎮守府ノ部中第九三三海軍航空隊ノ項ヲ削ル

佐世保鎮守府ノ部中第二五四海軍航空隊、第四五二海軍航空隊、第九五三海軍航空隊及第九五四海軍航空隊ノ各項ヲ削ル

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第三號(軍艦秘海軍公報第五九號(乙配付)ニ掲載)

内令第四號

舞鶴鎮守府豫備艦

軍艦利根

右練習兼警備艦ト定メラル

昭和二十年一月一日

海軍大臣

内令第五號

汽船快風丸

右特設砲艦トシ横須賀鎮守府所管ト定メラル

秘海軍公報 第四八九八號 昭和二十年一月九日

二三

1607

昭和二十年一月一日

海軍大臣

内令第六號

左ノ船舶ヲ特設艦船トシ其ノ種別及所管ヲ左ノ通定ム

昭和二十年一月一日

海軍大臣

| 船名 | 特設艦船種別 | 所管 |
|-----------|--------|--------|
| 汽船 第二萬代丸 | 特設艦船種別 | 横須賀鎮守府 |
| 同 第六惠山丸 | | |
| 同 第七惠山丸 | | |
| 同 第八惠山丸 | | |
| 同 第一大平丸 | | |
| 同 蛭子丸 | | |
| 同 第三仙賀丸 | | |
| 同 伯州丸 | | |
| 同 五號宮嶽丸 | | |
| 同 妙見丸 | | |
| 同 第十二池山丸 | | |
| 同 第七海上丸 | | |
| 同 第十三日ノ丸 | | |
| 同 第十四日ノ丸 | | |
| 同 第二十三日ノ丸 | 特設艦船種別 | 吳鎮守府 |
| 同 第二十四日ノ丸 | | |
| 同 第二十五日ノ丸 | | |
| 同 第三十一日ノ丸 | | |
| 同 第三十二日ノ丸 | | |
| 同 第四十八日ノ丸 | | |
| 同 第六十二日ノ丸 | | |
| 同 第六十三日ノ丸 | | |
| 同 第九神威丸 | | |
| 同 第九白神丸 | | |
| 同 第十一郵船丸 | | |
| 同 第二十七露船丸 | | |
| 同 第五赤倉丸 | | |
| 同 第四十三日ノ丸 | | |

内令第七號

昭和十八年内令第二五六號別表中左ノ通改正ス

昭和二十年一月一日

海軍大臣

佐世保防備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「竹東丸(佐)」ノ次ニ「第十一郵船丸(佐)、第二十七郵船丸(佐)、第五赤倉丸(佐)、第四十三日ノ丸(佐)」ヲ加フ
 高雄海軍警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄ニ「第十三日ノ丸(吳)、第

十四日ノ丸(吳)、第二十三日ノ丸(吳)、第二十四日ノ丸(吳)、第二十五日ノ丸(吳)、第三十一日ノ丸(吳)、第三十二日ノ丸(吳)、第四十八日ノ丸(吳)、第六十二日ノ丸(吳)、第六十三日ノ丸(吳)、第九神威丸(吳)、第九白神丸(吳)ヲ加フ
第一護衛艦隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ

| | |
|----------|----------|
| 第三海上海護衛隊 | 第二萬代丸(横) |
| | 第六惠山丸(横) |
| | 第七惠山丸(横) |
| | 第八惠山丸(横) |
| | 第一大平丸(横) |

第十六警備隊ノ項特設驅潛艇ノ欄「開南丸(吳)」ノ前ニ「煙子丸(横)、第三仙賀丸(横)、伯州丸(横)、五號宮嶽丸(横)、妙見丸(横)、第十二池山丸(横)、第七海上丸(横)」ヲ加フ

(内令提要卷三、四八ノ二九頁参照)

内令第八號

潛水隊編制中左ノ通改定セラル

昭和二十年一月四日

海軍大臣

第三十四潛水隊ノ項中「呂號第五十、」ノ下ニ「呂號第五十五、」ヲ加フ

(内令提要卷一、七〇頁参照)

官房教機密第九號
左表ニ依リ昭和十八年官房教機密第四一號ニ依ル召集直後ノ兵科豫備將校艦船配乗講習ヲ施行ス
昭和二十年一月八日

海軍大臣

| 講習場所 | 講習員數 | 講習期間 |
|--------|---------------------------|-------------------|
| 海軍航海學校 | 海軍少尉(豫備員) 約五〇名 | 昭和二十年一月十日應召著後約一月間 |
| 海軍工機學校 | 同 右 約四〇名 | 同上 |
| 備考 | 講習員ハ講習期間中海軍航海學校及海軍工機學校附トス | |

官房艦機密第七號ノ四

昭和二十年一月八日

海軍大臣

各鎮守府司令長官殿

兵器簿ノ件通達

各艦船部隊學校兵器簿砲術長主管之部中左記ノ通改正ス

記

| 區分 | 類別 | 品名 | 數量 | 摘要 |
|----|--------|---------|------|------------|
| 削除 | 砲術科諸要具 | 六倍稜鏡雙眼鏡 | 定數全部 | 航海長主管ニ移管ノタ |
| 削除 | 同 | 七倍稜鏡雙眼鏡 | | |
| 削除 | 同 | 八倍稜鏡雙眼鏡 | | |

祕海軍公報 第四八九八號

昭和二十年一月九日

二五

官房艦機密第七號ノ五

昭和二十年一月八日

海軍大臣

各領守府司令長官殿

兵器簿ノ件通達

各艦船兵器簿砲術長主管之部中左記ノ通改正ス

記

| 區分 | 類別 | 品名 | 改正定數 | 該當艦種 | 摘要 |
|----|--------|----------|------|-----------------|--------------------------------------|
| 改正 | 砲術科諸要具 | 秒時計 (一型) | 五個 | 戰艦、巡洋艦、航空母艦 | 雜記ニ示ス主兵器附着ノモノハ其ノ儘トシ一般用ノモノノミヨリ上記定數ニ改ム |
| 改正 | 砲術科諸要具 | 秒時計 (二型) | 二個 | 海防艦、特務艦、驅逐艦、掃海艦 | |

○通牒

兵備四機密第五〇〇號ノ五

昭和二十年一月八日

海軍省兵備局長

關係各廳長殿

陸軍戰時召集延期候補者ノ充足ニ關スル件申進

昭和十九年兵備四機密第五〇〇號ノ四(昭和十九年十二月十六日秘海軍公報參照)ニ依ル戰時召集延期實施要領(一般用)第八號ノ充足ヲ要スル各廳ハ其ノ員數ニ就テ調査官ヨリ割當ヲ受クルコトニ定メラレ候

○雜款

○事務開始

| 事務所名 | 設置場所 | 事務開始日 | 電話記事 |
|-----------------|------------------------|-------|------|
| 海軍省兵器部關門支隊 | 福岡縣門司市在勤海軍武官府内 | 三月三日 | |
| 第七十七號海防艦艇裝具事務所 | 横濱市鶴見區辨天町一七番地内 | 三月三日 | |
| 海防艦久賀艇裝具事務所 | 佐世保海軍工廠内 | 三月六日 | |
| 第七十九號海防艦艇裝具事務所 | 横濱市鶴見區辨天町一七番地内 | 三月六日 | |
| 第二百十九號海防艦艇裝具事務所 | 大阪市内西成區北賀屋町二一浪速船渠株式會社内 | 三月六日 | |

○事務所撤去

| 事務所名 | 撤去月日 | 記事 |
|-----------------|--------|----|
| 第五百十號海防艦艇裝具事務所 | 二月二十四日 | |
| 第一百十八號海防艦艇裝具事務所 | 二月二十七日 | |
| 伊號第四百潜水艦艇裝具事務所 | 二月三〇日 | |
| 第十六號輸送艦艇裝具事務所 | 二月三十一日 | |

○本日軍械秘海軍公報第五九號(乙配付)發行セリ

配付先 各司令部、各航空隊、各航空廠、同支廠、航空技術廠、同支廠

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報

第四八九九號

昭和二十年一月十日(水)
海軍大臣官房

○令 達

達第四號
海軍機關教範中左ノ通改正ス

昭和二十年一月八日

海軍大臣

第百七條ノ二「フレオン」式冷却機ノ取扱ニ關シテハ概ネ「メチールクロライド」式冷却機ニ準ズベキモノナルモ特ニ左ノ諸號ニ留意スルヲ要ス

一 本機ノ定期検査ヲ行フベキ箇所、時期及検査要領ハ第七條第一號ニ依ルノ外大凡左表ノ如シ

| 時期 | 箇所 | 検査要領 | 定期使用時數 | |
|-----|--------|------------------------------|--------|-----|
| | | | 月ケ一 | 月ケ三 |
| 膨服弁 | 復水器保護蓋 | 主復水器ニ準ジ腐蝕ノ狀況ヲ檢シ要スレバ之ヲ豫備品ト換裝ス | 三 | 百 |
| | 復水器管内面 | 主復水器ニ準ジ掃除手入ノ上検査ヲ行フ | 三 | 百 |
| 膨服弁 | 冷媒入口濾網 | 検査手入ヲ行フ | 三 | 百 |
| | 冷媒入口濾網 | 検査手入ヲ行フ | 三 | 百 |

二 「フレオン」ハ無害ナルモ「メチールクロライド」ノ毒性ハ「フレオン」トノ混合ニヨリ増強スルヲ以テ兩者ノ混用

ハ避クルヲ要ス

(參)「フレオン」ノ代リニ「メチールクロライド」ヲ補填シタル爲漏洩「ガス」ニ依リ多數ノ中毒患者ヲ發生シタル事故アリ

「フレオン」ノ補給不可能ニシテ已ムヲ得ズ「メチールクロライド」ヲ代用スル場合ハ冷却機内ノ「フレオン」ヲ完全ニ排除シタル後ニ「メチールクロライド」ヲ充填シ兩「ガス」ノ混合ヲ極力避クルト共ニ「ガス」漏洩防止及通風換氣ニ關シ充分注意スルヲ要アリ但シ潜水艦ニ在リテハ潛航中ノ換氣困難ナルヲ以テ「フレオン」ノ代用トシテ「メチールクロライド」ヲ使用スルコトハ絕對ニ避クルヲ要ス

三 膨服弁、乾燥器及濾過器ノ分解検査又ハ乾燥劑取換ヲ行フ場合ハ「ガス」ヲ徒ラニ逸散セシメザル爲復水器出口弁ヲ閉鎖ノ上吸込側聯成計指度ガ零ト爲ル迄運轉シテ「ガス」ヲ復水器内ニ回收シ管系各塞止弁及壓縮機吸込弁等ヲ閉鎖シタル後實施スルヲ要ス

四 壓縮「シリング」出口弁座ト同「シリング」上端トノ摺合面ハ漏洩シ易キヲ以テ機會アル毎ニ検査ヲ行ヒ常ニ良好ニアラシムルヲ要ス

秘海軍公報 第四八九九號 昭和二十年一月十日

二七

1611

(參) 壓縮「シリンド」出口弁座抑ハ強キ緩衝「バネ」ヲ以テ支ヘラレ冷媒又ハ潤滑油ノ浸入シタル場合生ズル不當ノ水撃作用ヲ緩和セシム

五 壓縮機ノ「クランク」室ハ濾過器ヲ通ジ吸込側ニ交通シ居ルヲ「シムル」及漏止座ヲ設ケ之ニ注油シ油膜ヲ以テ封氣ノ用ヲ爲サシムルモノナレバ此等ノ摺合ニハ特ニ注意シ常ニ良態ニアラシムルヲ要ス

(參) 「クランク」室ハ濾過器ヲ通ジ吸込側ニ交通シ居ルヲ以テ常ニ「ガス」充滿シ其ノ壓力毎平方糎二疋ニ達スルコトアリ從ツテ「クランク」軸貫通部ノ摺合不良ナル場合ハ「ガス」漏洩ノ原因ト爲ルコトアリ

六 「ガス」關係部ニ漏洩ヲ生ズルカ又ハ分解検査其ノ他「ガス」管ノ取外シ作業ヲ行ヒタルトキハ空氣試驗及眞空試驗又ハ「ガス」検知器ニ依リ「ガス」漏洩ノ有無ヲ檢スルヲ要ス而シテ左ノ箇所ハ特ニ「ガス」ノ漏洩ヲ生ジ易キヲ以テ該部ノ検査及整備ニハ慎重ナル注意ヲ要ス

(イ) 「クランク」軸貫通部ノ軸縮管又ハ漏止「リング」ノ摺動部及伸縮管「ハンダ」附部又ハ漏止「リング」「ゴムパツキン」部

(ロ) 膨脹弁伸縮管鐵付部
(參) 「ハライド」型「ガス」検知器ヲ用ヒテ「ガス」檢知ヲ行フニハ之ニ點火シ附屬ノ撓管ヲ推定漏洩箇所ニ導キ附近ノ空氣ヲ吸入セシメ煙ノ綠色ニ變ズル程度ニ

依リ確實ナル漏洩箇所及漏洩ノ程度ヲ判定ス

七 出口側ニ在ル壓力閉閉器ハ「ガス」壓縮壓力ガ過升シタル場合作動シテ電動機ノ電路ヲ遮斷シ危險ヲ未然ニ防止スルモノナレバ時機アル毎ニ其ノ作動ヲ確認シ置クヲ要ス
(參) 本器ノ作動壓力ハ機械ノ裝備位置及用途ニ依リ異ルモ通例毎平方糎十二疋内外トス

八 本機ノ起動ニ際シテハ負荷ノ急激ナル増加ヲ防グ爲吸込側塞止弁同近路弁ヲ全開ノ上起動シ徐々ニ近路弁ヲ閉鎖シ運轉状態ト爲スヲ要ス

九 注油壓力ハ「クランク」室壓力(吸込壓力)ニ概ネ毎平方糎〇・五疋乃至〇・八疋ヲ加ヘタルモノヲ適當トス
(參) 油壓調整弁ヲ裝備セザルモノニ在リテハ電動機側軸受上部ノ盲栓ヲ取外シ調整「ネジ」ヲ廻シテ行フモノトス

一〇 「フレオン」ハ潤滑油ニ溶解シ潤滑油ノ粘度ヲ著シク低下セシムルモノナレバ本機ニ使用スル潤滑油ハ特ニ粘度大ナルモノヲ必要トシ二號又ハ一號外部鍍油ヲ使用スルモノトス

一一 運轉中潤滑油ノ油面過高ナルカ或ハ起動時吸込壓力ヲ急激ニ降下セシムレバ潤滑油中ニ溶解セル「ガス」急激ニ蒸發シ潤滑油ヲ「ピストン」上ニ吸上ケ水撃作用ヲ惹起スルコトアルヲ以テ注意ヲ要ス尙潤滑油量ハ停止中油面計ノ九分目ニ在ラシムルヲ適當トス

(參) 本「ガス」ノ潤滑油ニ對スル溶解程度ハ壓力高ク溫度低キ程大ナルモノニシテ通例壓力每平方糎二・五、溫度三〇度ニ於テ「ガス」重量ノ約一二％(潤滑油ノ重量ニ對シ約五％)ナリ其ノ結果潤滑油ノ粘度ハ著シク低下シ油量ハ増加ス一般ニ潤滑油ニ對スル「ガス」溶解量五・五七％(重量)ノトキ粘度ハ約六〇％ニ減少ス

二 「ガス」乾燥器ハ新ニ「ガス」ヲ充填シタルトキハ一時間乃至二時間使用シ其ノ間二回乃至三回乾燥劑ヲ取替ヘ「ガス」ヲ乾燥セシムルヲ要ス爾後ハ乾燥器ノ使用ヲ止メ濾過器ヲ使用スルヲ建前トス尙潤滑油ヲ補給シタルトキハ三十分乃至一時間乾燥器ヲ使用スルヲ要ス

(參) 同一乾燥劑ヲ長時間連續使用スルトキハ潮解ニ依リ「ガス」管内ニ流入シ膨脹弁ヲ杜塞スルコトアリ

一三 空氣冷却器、冷蔵庫等ノ溫度調節ハ膨脹弁ニ依リ自動的ニ行ハルモノニシテ之ガ作動ノ良否ハ此等ノ溫度ニ對スル「ガス」壓力ニ依リ略判定シ得ルモノナルヲ以テ運轉中ハ常ニ之ニ留意スルヲ要ス

(參) 「ガス」壓力ノ調整ニ當リテハ冷蔵庫壓力溫度計ガ冷蔵庫内溫度ヨリ約六度低クナル様調整スルヲ可トス此ノ場合壓縮壓力ニ相當スル「ガス」飽和溫度ガ復水器冷却水入口溫度ヨリ五度乃至十度高ク指示セバ「ガス」量ハ適當ナリ復水器ニ液面計ヲ裝備セルモノニ在リテハ止動後復水器ニ「ガス」ヲ回收シ其ノ量ノ適否ヲ判定シ得

一四 空氣冷却器、冷蔵庫等ノ「ガス」壓力ハ其ノ用途ニ依リ異ルモノ大凡左ノ標準ニ依ルヲ可トス但シ如何ナル場合ニ於テモ每平方糎零以下又ハ每平方糎二・五以上ト爲サザルヲ要ス

(イ) 空氣冷却器每平方糎二・〇疋乃至每平方糎二・五疋
(ロ) 冷蔵庫及飲料水冷却用每平方糎〇・五疋乃至每平方糎一・〇疋

(ハ) 製氷用每平方糎〇・五疋

(參) 吸込壓力ヲ每平方糎零以下ニ下降セシムレバ「クランク」室内ニ空氣ヲ吸込ミ又每平方糎二・五疋以上ニ上昇セシムレバ電動機ノ過負荷運轉ヲ生ズ

一五 本機ハ竝列運轉ヲ行ハザルヲ建前トスルモ已ムヲ得ズ之ヲ行ヒ空氣冷却器及冷蔵庫、製氷箱等ノ如ク冷却溫度ノ異ル箇所ヲ同時ニ冷却スル場合「ガス」壓力及溫度ノ差異ニ依リ冷媒「ガス」及潤滑油ノ片寄ヲ生ズルト共ニ空氣冷却器ハ過冷却ニ偏シ其ノ他ノ箇所ハ冷却不充分ト爲ル傾向アルヲ以テ左ノ諸號ニ留意スルヲ要ス

(イ) 「ガス」交通弁及潤滑油交通弁ハ閉鎖ノ儘トシ出口壓力及吸込壓力ハ常ニ兩機ヲ同一ナラシムル如クス但シ「ガス」交通弁ヲ復水器ノ入口側及出口側ニ裝備セルモノニ在リテハ該交通弁ハ常ニ啓開ノ儘トス

萬一復水器液化「ガス」及「クランク」室内潤滑油ノ片寄ヲ生ジタル場合ハ一時壓縮機ヲ止動シ兩機ノ出口又ハ

吸込壓力ヲ全ク同一ナラシメタル上夫々交通弁ヲ啓閉シ兩者ヲ平均セシムルモノトス

(參) 「ガス」量ノ適否判定ハ復水器内液化「ガス」量ヲ基準トスルヲ可トシ約二分ノ一量ヲ適當トス液面ハ溫度差ニ依リ判定シ得

(ロ) 空氣冷却器、冷蔵庫等ノ冷却程度ノ片寄ヲ生ズルハ吸込壓力ノ差異ニ依ル「ガス」通過量ノ變化ニ基クモノナレバ之ヲ所要溫度ニ保持スル如ク「ガス」戻弁ヲ加減シ「ガス」通過量ヲ調節スルモノトス

(參) 膨脹弁ニ依リテモ調節シ得ルモ該弁ノ保存上「ガス」戻弁ニ依ルヲ可トス

一六 冷却能力ノ低下ハ概ネ漏洩ノ爲「ガス」量不足スルカ又ハ膨脹弁ノ作動不良ニ依リ「ガス」通過量減少シタル場合ニ起ルモノニシテ前者ニ對シテハ適量ノ「ガス」ヲ補給シ後者ニ對シテハ「ガス」通過量ヲ増加スル如ク膨脹弁ノ調整ヲ行フヲ要ス但シ膨脹弁ノ開度過大ナルトキハ却ツテ冷却不良ト爲ルノミナラズ冷媒ハ液狀ノ儘「クランク」室内ニ流入シテ氣化シ又ハ「ピストン」ノ上部ニ液ヲ吸上ゲ水撃作用ヲ起シ出口弁ヲ破損スル惧アルヲ以テ注意スルヲ要ス

(參) 液ガ「クランク」室ニ流入シタル場合ハ「クランク」室又ハ吸込側「ガス」管ニ霜附着スルヲ以テ容易ニ發見シ得斯ル狀態ヲ呈シタル場合ハ一旦復水器出口弁ヲ閉鎖

シテ蒸發管及「ガス」管系内ノ液化「ガス」全部ヲ復水器ニ回收シタル後膨脹弁ノ調整ヲ行フモノトス

(參) 膨脹弁ノ調整ハ感熱筒連絡管取附部ノ調整「ネジ」ニ依リ行フモノニシテ之ヲ縮ムレバ冷却溫度下降ス而シテ運轉中溫度ノ調整ヲ行フニハ該調整「ネジ」ヲ約一回轉宛廻シ溫度變化ノ狀況ヲ確認シツツ徐々ニ行フモノニシテ若シ溫度ノ變化ヲ認メザルトキハ之ヲ中止シ過度ノ調整ヲ避ケ他ノ原因ヲ調査スルヲ要ス

(參) 膨脹弁作動ノ良否ハ感熱筒取附位置ニ依リ左右セラ

ルルコト多キヲ以テ留意スルヲ要ス

一七 「ガス」管系ニ水分混入シ膨脹弁凍結ノ傾向ヲ認メタルトキハ復水器出口弁ヲ閉鎖シテ膨脹弁本體ヲ徐々ニ温ムルカ或ハ機械停止ノ儘自然融解セシムルヲ要ス

(參) 膨脹弁ノ加熱ハ四十度ヲ越エシメザルモノトス

一八 運轉ヲ停止スル場合ハ復水器出口弁ヲ閉鎖シ吸込壓力ガ每平方厘米附近ニ達シタル後停止シ各弁ヲ確實ニ閉鎖シ置クヲ要ス

此ノ場合吸込壓力ヲ真空ト爲サザル様注意スルヲ要ス

(參) 膨脹弁ハ吸込壓力ガ每平方厘米五・〇疋ニ上昇セバ伸縮管ニ作用シテ針弁ヲ自動的ニ閉鎖シ「ガス」ノ送出ヲ遮斷シテ吸込壓力ノ過昇ヲ防止ス

一九 本機ヲ長期間休止スル場合ハ「ガス」漏洩防止ノ爲復水器出口弁ヲ閉鎖シ上運轉シ吸込壓力零附近ト爲リ更ニ壓

力上昇ノ傾向ヲ認メザル迄運轉停止ヲ繰返シ「ガス」ヲ復水器内ニ回收シタル後運轉ヲ停止シ壓縮機ノ吸込側及出口側各塞止弁ヲ閉鎖ス而シテ停止後ハ各弁ヲ閉鎖ノ上弁附屬ノ冠ヲ装着シ置クヲ要ス

官房人機密第五號

本年一月一日現在左記上欄各隊ノ職員タル者ハ特ニ發令セララルモノノ外別ニ辭令ヲ用ヒズシテ各下欄ノ相當職員ニ補命セラレタル義ト心得ベシ

昭和二十年一月一日

海軍大臣

記

| | | |
|----------------|--------|-----------|
| 第二五四、第九五三、第九五四 | 各海軍航空隊 | 第九〇一海軍航空隊 |
| 第九三三 | 海軍航空隊 | 第九三六海軍航空隊 |

○通牒

官房軍機密第二七號

昭和二十年一月八日

海軍次官

關係各廳長殿

空家ニ關スル防空強化對策要綱ニ關スル件通牒

首題ノ件ニ關シ別紙ノ通閣議決定相成候條了知相成度

(別紙)

空家ニ關スル防空強化對策要綱(昭和二十年一月三日閣議決定)

現下ノ防空情勢ニ鑑ミ帝都ニ於ケル空家及準空家(毎日一定時不在トナル如キ家屋、居住者著シク少數ナル家屋等)ニ關シテハ全般ノ防空對策ニ呼應シ左ノ諸方策ヲ綜合的ニ實施シ以テ都市防空ノ強化ヲ圖ルモノトス

第一 家屋防空ノ強化

一 學校、事務所、倉庫等ニ付其ノ規模、構造及環境等ニ應ズル適當數ノ防空従事者ヲ常在セシムル如ク宿直強化等ノ措置ヲ講ゼシムルモノトス

二 一般住宅ニ付テモ適當數ノ防空従事者ヲ居住セシムル如ク指導スルモノトス

三 撤去セザル空家及準空家ニ對シテハ東京都ニ於テ實買若ハ貸借ノ斡旋又ハ留守擔當者、寄宿人等ノ斡旋ヲ積極的ニ行フモノトス

第二 空家ノ開引疎開

一 空家ニシテ防空上疎開ヲ必要トスルモノニ付開引疎開ヲ行フモノトス特ニ密集地區内ニ在ルモノハ至急撤去シ防空上遺憾ナカラシムルモノトス

二 空家ノ開引疎開ハ従前ノ建築物疎開ノ例ニ依リ實施スルコトトシ之ニ因リ生ズル古材其ノ他ノ資材ハ主トシテ一般

又ハ工場等ノ防空施設ノ強化ニ活用スルモノトス
三 本件實施ニ當リテハ要殘留者ノ合宿施設、建築物疎開ニ
因ル移轉者ノ住居又ハ罹災者收容施設等ニ充ツル爲必要ニ
シテ且防空上ノ支障尠キ空家ハ之ヲ存置セシムルモノトス
備考
帝都以外ノ重要都市ニ於テモ必要ニ應ジ本要綱ニ準ジ實施ス
ルモノトス

水機密第二七一號ノ一

昭和十九年十二月二十八日

水路部總務部長

關係各廳長殿

陸圖請求手續ニ關スル件申進

近時陸圖使用ノ激增ニ伴ヒ各部隊、官衙及學校等ヨリ直接參謀
本部若クハ陸地測量部ニ請求ノ向多數有之候處當該書類ハ其ノ
都度當部へ轉送セララルル狀況ニテ事務處理上支障不尠候條自今
部内各部ノ陸圖請求書類ハ當部宛送付ノコトニ取計相成度

水機密第二七二號ノ一

昭和十九年十二月二十八日

水路部長

關係各廳長殿

水路(航空)告示配付ニ關スル件申進

首題ノ件從來當部ヨリ關係各部へ廣送セルモ艦船ノ事故其ノ他

機密保持上不便不尠自今軍需部經由配付ノコトニ變更(但シ陸
上部隊ニハ從來直通送)セルヲ以テ關係各部間ノ緊密ナル連絡
ニ依リ告示配付ノ回溜迅速ヲ期スル様取計相成度
追テ艦船ニ於テ同一告示(軍機、秘)ヲ最寄軍需部及所管軍
需部ノ双方ヨリ配付ヲ受ケタル場合ハ適宜其ノ一部ヲ燒却供
給廳へ通報處理相成度

○雜款

○學生入校期

一 昭和十九年官房人機密第三一三號ニ依ル本校第二十九期特
修科學生(艇長)

一 昭和十八年官房人機密第四一五號ニ依ル本校第三十期特修
科學生(對潛)

右孰モ二月三日(土)始業ニ付其ノ前日迄ニ着校セシメラレ度
(海軍對潛學校)

○本日軍機秘海軍公報第六〇號(乙配付)發行セリ
配付先

關係各司令部、橫須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、
高雄海軍警備隊、石垣島、宮古島各警備隊、大島防備隊

秘

海軍公報

第四九〇〇號

〇令 達

達第六號

海軍工員戰時特例給與規則中左ノ通改正ス

昭和二十年一月十日

海軍大臣 臣

第二十條ノ二 工員ニハ戰時軍人軍屬旅費特例第十七條ノ二及

第十七條ノ三ノ規定ヲ準用ス

附則

本令ハ昭和十九年十月一日以後ノ給與ニ付之ヲ適用ス

内令第九號

海防隊編制中左ノ通改正セラレ

昭和二十年一月五日

海軍大臣 臣

第二十一海防隊ノ項ノ次ニ左ノ一項ヲ加マ

第二十二海防隊 第八號、第三十二號、第五十二號、第六十六號

(内令提要卷一、七三頁参照)

官房教機密第一三號

海軍豫備練習生(航空關係ヲ除ク)教育綱領中左ノ通改正ス

秘海軍公報 第四九〇〇號 昭和三十年一月十一日

昭和二十年一月九日

海軍大臣官房

第六條第二號(ニ)中「又ハ通信學校教育期間」ニ、「(ハ)通信學校又ハ電測學校教育期間」ニ、「(ホ)ニ改メ(ロ)ノ次ニ左ノ如ク加フ」

(ハ) 水測術豫備練習生

| 科目 | 課目 | 項目 | 日 | 記事 | (一) 砲術 | | (二) 水雷術 | | (三) 對潜術 | | | (四) 機雷術 |
|----|----|------------------------------------|---|----|--------------------------------|------------------|---------------------------------------|-------------|----------------|--------------|----|---------|
| | | | | | 砲戰 | 艦砲 | 兵器學 | 操法 | 水測法 | 投射法 | 音感 | |
| | | 徒手教練、執銃教練、小銃射擊法、砲法、大要、對空射擊、魚雷兵器ノ大要 | | | 艦艇水測兵器、艦艇水測指揮裝置、煤雷投射裝置、衛所兵器ノ大要 | 艦艇水測操法、投射操法、煤雷教練 | 水測理論、艦艇水測法、艦艇水測指揮法ノ大要、艦艇水測實習、衛所水測法ノ大要 | 投射法ノ大要、投射實習 | 音感ノ大要、艦艇水中音ノ大要 | 機雷ノ大要、掃海具ノ大要 | | |

1617

| | | | | | | | | | |
|---------|-----------------|--|---------|---------------------|---------|--|---------|---------------|----------|
| (五) 潜水艦 | (六) 航海術 | (七) 運用術 | (八) 航空機 | (九) 電氣 | (十) 工作術 | (十一) 軍法及法規 | (十二) 要務 | (十三) 普通學 | (十四) 其ノ他 |
| 航海 | 信號見張 | 運用術 | 航空機ノ大要 | 電氣、磁氣、電氣工業、對潛關係電氣兵器 | 金屬工業ノ大要 | 帝國海軍制度及組織、列國海軍ノ現狀概要、艦隊編制令、艦隊令、海軍服制、海軍教育規則、海軍法、海軍刑法、懲罰令、戰時國際公法、其ノ他須要諸法規一覽 | 掌水測要務 | 學、電氣磁氣學、電氣音聲學 | 衛生學 |
| 潜水艦ノ大要 | 航海兵器ノ大要、水路圖誌ノ大要 | 手旗信號、發光信號、旗旗信號、見張一般、機槽及帆走法、機動艇操縱法、短艇指揮心得 | | | | | | 海軍衛生一般、救急法 | 會計經理 |
| | | | | | | | | 會計經理ノ概要 | 會計經理 |

○ 通 牒

官房備第一號

昭和二十年一月十日

海軍省 副官

各 廳 長 殿

空襲關係通話ノ取締ニ關スル件通牒
首題ノ件ニ關シ別紙ノ通知有之候條了知相成度

(別紙)

通監二第七九〇號

昭和十九年十二月二十七日

海軍 次 官 殿 通 信 院 總 裁

空襲關係通話ノ取締ニ關スル件

空襲時及其ノ後一定期間被害地及其ノ周邊地域ニ發著スル市外通話中官公者ノ爲ス官用通話及新聞社ノ爲ス報道通話ヲ除ク私用通話ニ對シ臨時取締ヲ施行スルコト有之此ノ場合交換取扱者ニ於テハ私用通話ト官用通話トノ識別困難ナル爲右取扱者ヲシテ通話接續ノ際一應總テノ通話者ニ對シ「空襲ノオハオ切リ致シマスカラ御注意下サイ」ト云フガ如キ注意ヲ爲サシメタル上私用通話ニシテ一般被害狀況其ノ他當局發表以外ノ空襲關係事項ニ言及スルモノヲ發見シタルトキハ該電話ヲ切斷セシムルコトト致居候
就而貴省關係機關ニ於テ空襲被害狀況ノ報告又ハ之方對策指令上必要ナル事項等ヲ電話ニ依リ通報セントスルトキ前記ノ如キ注意アリタル場合ハ交換取扱者ニ官用通話タルコトヲ了知セシムル「何(報告官廳名)ヨリ何(上級官廳名)へ被害狀況ノ報告」又ハ「何(指令官廳名)ヨリ何(受命官廳名)へ對策指令」等通話目的ヲ交換取扱者ニ申出ツル様致度ニ付貴省關係各機關ニ對シ右通達相煩度此段得貴意候

- 一 本取扱ニ依ル火工兵器ハ信管ヲ離脱シ破損ノ虞ナキ木梓詰トシ且引火シ易キ包装ヲナサザルコト
- 二 使用貨車ハ側板床板共木製ノモノトシ内側ニ突出セル金物ハ適當ノ防護ヲ施シ側扉ノ鎖錠裝置ハ完全ナルモノヲ充當スルコト
- 三 積載方ハ中央部ヲ側板ヨリモ稍高ク山形積トシ(箇數ノ關係ニテ側板以下ニ收マルモノニ在リテハ山形ノ梓ヲ取付クルカ又ハ空箱ヲ上部ニ積ミ重ネテ山形トス)網ヲ以テ嚴重ニ緊縛シ運轉中ノ衝動等ニ依ル移動ヲ起サシメザルコト
- 四 積付タル後覆布ヲ以テ完全ナル覆ヲ爲シ車内ニ火粉又ハ雨水ノ浸入スルガ如キ凹ミ等ヲ殘サザル様緊縛スルコト

○雜 款

○旅費支給ニ關スル件
 當隊ハ沖繩縣島尻郡小祿村ニ進駐中ニ付小祿迄ノ移轉料及着後手當ノミ前金拂ノコトニ取計相成度
 追テ家族移轉料支給上ノ勤務地ハ長崎縣佐世保市ナリ爲念
 (南西諸島海軍航空隊)

○事務開始

| 事務所名 | 設 置 場 所 | 事務開始月日 | 電 話 | 記 事 |
|--------------|-------------------|--------|-----|-------------|
| 第二百三防空隊殘務整理班 | 硫黃島警備隊内 | 二月廿日 | | |
| 父島海軍航空隊殘務整理班 | 第九〇三海軍航空隊交島基地派遣隊内 | 三月一日 | | |
| | | | | 三月五日 日解隊 |

○事務所撤去

| 事務所名 | 撤去月日 | 記 事 |
|-------------------------|--------|-----|
| 第四十號海防艦艦裝具事務所 | 二月二三日 | |
| 驅逐艦花月艦裝具事務所 | 二月二十六日 | |
| 第三百九號警隊(橫濱在勤海軍武官府第五假兵令) | 二月二十九日 | |
| 第八十四號海防艦艦裝具事務所 | 二月三十一日 | |

○本日海軍公報發行セズ

秘

海軍公報

第四九〇一號

昭和二十年一月十二日(金)

海軍大臣官房

○令 達

達第七號

海軍下士官兵身上取扱規則中左ノ通改正ス

昭和二十年一月十一日

海軍大臣 臣

訂正済

第五條ノ三 所轄長ハ戰地其ノ他通信連絡不便ナル地ニ向ケ進

出ノ際ハ必要ニ應ジ入院(部外依託治療等ヲ含ム)中ノ下士

官兵ヲ本人在籍鎮守府ノ海兵團ニ送籍スルコトヲ得

第五條ノ四 所轄長ハ戰地其ノ他通信連絡不便ナル地ニ在リテ

下士官兵ヲ内地ノ海軍病院ニ還送セシムル爲病院船ニ入院ヲ

命ジ又ハ艦船ニ便乗セシメタルトキハ其ノ出發ノ日ヲ以テ在

籍鎮守府ノ海兵團ニ送籍スルモノトス

第五條ノ五 所轄長ハ戰地其ノ他通信連絡不便ナル地ニ在リテ

下士官兵ヲ特設海軍病院ニ入院セシメ又ハ治療設備ノ必要上

特設海軍部隊等ニ依託治療ヲ爲シタル場合ニ於テ病狀内地等

ニ還送ヲ要セザルモ概ネ一月以上ノ療養ヲ要スル見込ノモノ

ナルトキハ其ノ出發ノ日ヲ以テ當該地域ノ補充ヲ擔任スル特

設海軍補充部ニ送籍スルコトヲ得

内令第一〇號

海軍航空隊ノ所管、名稱及所在地又ハ原駐基地ノ件申左ノ通改

秘海軍公報 第四九〇一號 昭和二十年一月十二日

正セラル

昭和二十年一月五日

海軍大臣 臣

横須賀鎮守府ノ部中神町海軍航空隊ノ項ヲ削リ舞鶴鎮守府ノ部
中第二美保海軍航空隊ノ項ノ前ニ左ノ如ク加フ

神町海軍航空隊 山形縣北村山郡

(内令提要卷一、三〇ノ三九頁参照)

内令第一一號

特設海軍運輸部令申左ノ通改正セラル

昭和二十年一月六日

海軍大臣 臣

別表第一 横須賀鎮守府ノ部中南東方面艦隊ノ項ヲ削リ
別表第三中「ラバウル」ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ六三頁参照)

内令第一二號

海軍運輸部ノ支部ヲ置ク地等ノ件申左ノ通改正ス

昭和二十年一月六日

海軍大臣 臣

三七

1621

別表中「ブイン」ラバウル海軍運輸部「ブイン支部」ヲ削ル

(内令提要卷一、三八ノ七三頁参照)

官房需第二號

昭和十八年官房需第一八八號及昭和十九年官房需第二二三號中「第七十九條ノ二」ヲ「第七十九條ノ七」ニ改ム

昭和二十年一月十日

海軍大臣

(参照) 昭和十八年官房需第一八八號 海軍會計法規類集二卷三二〇ノ八頁
昭和十九年官房需第二二三號 昭和一九、八、二七秘海軍公報

○通牒

海人三第主號ノ四

昭和二十年一月十日

海軍省人事局長

關係各所轄長殿

特設海軍病院ニ入院シタル者ノ人事取扱ニ關スル件自然消滅ノ件通知

本年達第七號ヲ以テ海軍下士官兵身上取扱規則改正ニ伴ヒ昭和十八年海人第三〇號ノ一二五首題ノ件ハ自然消滅ノ義ト了知相成度

(諸例則卷二、三〇二頁参照)

海人三第二號ノ五

昭和二十年一月十日

海軍省人事局長

關係各所轄長殿

下士官及兵ヲ送籍スベキ海兵團ニ關スル件申進

當分ノ間海軍下士官兵身上取扱規則其ノ他ノ規定ニ依ル下士官及兵ノ送籍先ハ在籍鎮守府ノ軍港名ヲ冠稱スル海兵團(特別志願兵ニ在リテハ在籍警備府ノ海兵團)ニ一定セラレ候條了知相成度

艦本機密第六號ノ二一八三九

昭和二十年一月十一日

海軍艦政本部總務部長

各海軍工廠長

各海軍需部長

各海軍監督長

各海軍監部長

新造艦船山川燈裝備取止メノ件通知
自今新造艦船ニハ首題兵器ヲ裝備セラレサル方針ニ付目下建造中ノ艦船ニ對シ該兵器裝備ヲ取止メ所管軍需部ニ還納方取計相成度

追テ本件ニ關シ既發布ノ兵器搭載豫定表並ニ兵裝工事要領書ノ訂正ハ特ニ行ハレズ兵器簿制定ノ際削除セララル豫定ニ有之候

○雜款

第八十四號海防艦艇裝具事務所

二月三十一日

○事務所移轉
高雄海軍軍需部馬公出張所衣糧課ハ昨年十二月二十一日左記ニ移轉セリ

馬公街馬公二七九番地(糧食品受渡場前)
電話 二三四番

(高雄海軍軍需部)

○事務所開始

| 事務所名 | 設置場所 | 事務開始月日 | 電話 | 記事 |
|------------------|---------------------|--------|----|----|
| 第百二號海防艦艇裝具事務所 | 長崎市飽ノ浦町海軍監督官事務所内 | 三月三日 | | |
| 第百三十二號海防艦艇裝具事務所 | 吳海軍施設部内 | 一月二日 | | |
| 第百三十六號海防艦艇裝具事務所 | 舞鶴市公文名舞鶴海軍施設部第一設營班内 | 一月二日 | | |
| 第百三十三號海防艦艇裝具事務所 | 三愛重工業株式會社神戶造船所内 | 一月四日 | | |
| 伊號第百七十三潛水艦艇裝具事務所 | 横須賀海軍工廠内 | 一月六日 | | |

○事務所撤去

| 事務所名 | 撤去月日 | 記事 |
|----------------|--------|----|
| 海防艦竹生艇裝具事務所 | 二月三十一日 | |
| 第八十二號海防艦艇裝具事務所 | 二月三十一日 | |

○轉勤者赴任先

左記飛行隊ヘノ轉勤者ハ左ニ依リ赴任センメラレ度
千葉縣海上郡旭町香取航空基地(總武本線千湯驛下車徒歩約十五分)

記

攻撃第三飛行隊
攻撃第一〇五飛行隊
攻撃第二五一飛行隊

(第一三一海軍航空隊)

○電話開通

撈津局 三九〇番
藤枝局 五五〇番

(關東海軍航空隊)

○訂正

昭和十九年七月一日調應召豫備士官名簿中左ノ如ク訂正ス
飛行班少尉ノ部ニ

| | | |
|-----------|--------------|--------|
| 練習航空隊特修學生 | 昭和 18. 8. 31 | 菅野五郎 |
| | 昭和 18. 8. 31 | ヨヒ四九ノ二 |
| | 昭和 18. 8. 31 | |
| | 昭和 17. 9. 30 | |

ヲ加フ

合同海軍葬儀執行

| 期日及時刻 | 大東亞戰爭戰歿者 | 喪葬管理者 | 場所 | 記事 |
|-------------|------------------|-------------|-----------|----|
| 一月十六日 一〇〇〇 | 故海軍少將中津成基外諸勇士 | 福岡地方海軍人事部長 | 福岡市縣公會堂 | 佛式 |
| 一月十九日 〇九三〇 | 故海軍少佐吉尾寅男外諸勇士 | 高知地方海軍人事部長 | 高知市城東國民學校 | 同 |
| 一月二十二日 〇九〇〇 | 故海軍大佐内田友志外諸勇士 | 鹿兒島地方海軍人事部長 | 鹿兒島市西本願寺 | 同 |
| 一月二十二日 〇九三〇 | 故海軍中佐馬越正博外諸勇士 | 高松地方海軍人事部長 | 高松市縣公會堂 | 同 |
| 一月三十日 一〇三〇 | 故海軍主計大佐佐竹誠外諸勇士 | 仙臺地方海軍人事部長 | 仙臺市縣公會堂 | 同 |
| 一月三十日 一〇三〇 | 故海軍主計中尉與那瀨武孝外諸勇士 | 那霸地方海軍人事部長 | 那霸市閉南中學校 | 同 |
| 二月二日 一〇三〇 | 故海軍少佐上原秋七外諸勇士 | 宇都宮地方海軍人事部長 | 前橋市群馬會館 | 同 |

秘

海軍公報

第四九〇三號

昭和二十年一月十三日(土)
海軍大臣官房

○令 達

官房第一八號
雜役船ノ所屬ヲ左ノ通變更ス

昭和二十年一月十二日

海軍大臣

| 公稱番號 | 船種 | 舊所屬 | 新所屬 | 定數別數 | 記事 |
|--------------------|--------------|-----------|----------|------|----|
| 第六三八號 | 曳船 (三百噸) | 大湊海軍港務部 | 大湊海軍運輸部 | 定數 | |
| 第四五五號 | 曳船兼交通船 (六十噸) | 橫須賀海軍港務部 | | | |
| 自第一七六五號 至第一七六八號 | カ (九米) (四隻) | | | | |
| 第一七七號 | 同 (八・五米) | | | | |
| 第一一九號 | 同 (同) | | | | |
| 第三六一七號 | 傳馬 (十二米) | | | | |
| 第三六二四號 | 同 (同) | | | | |
| 第四〇一九號 | 同 (同) | | | | |
| 第四〇二二號 | 同 (同) | | | | |
| 第五五二九號 | 同 (同) | 橫須賀海軍工作學校 | 沼津海軍工作學校 | 同 | |
| 自第五五三一號 至第五五三三號 | 同 (十二米) (三隻) | | | | |

秘海軍公報 第四九〇三號、昭和二十年一月十三日

1625

| | | | | |
|--------------------|--------------------|--|---------|------|
| 第三六一九號 | 内火傳馬船 (十二米) | | 博多海軍航空隊 | 同 |
| 自第六七五四號 至第六七六三號 | 傳馬 (十二米)(十隻) | | 光海軍工廠 | 同 |
| 第六八六五號 | 同 (八米) | | 榆林海軍運輸部 | 臨時附屬 |
| 第二〇八九號 第二〇九〇號 | 特型運貨船 (十七米)(二隻) | | 川棚海軍工廠 | 同 |
| 第一三五三號 第一三五四號 | 同 (十四米)(二隻) | | 馬公海軍工作部 | 同 |
| 第六三九一號 | 動力船 | | 佐世保海軍工廠 | |

○通牒

軍務一機密第一號ノ二
昭和二十年一月一日

關係各廳長 殿
海軍省軍務局長

海軍練習航空隊ニ指定セラレザル海軍航空隊
ニ於ケル雷爆班下士官ノ定員數ニ關スル件申
進

昭和十九年軍務一機密第三三九號申進海軍航空隊等ニ於ケル各
班下士官數等ニ關スル件第二號ニ依ル雷爆班下士官ノ定員數ニ
ハ昭和二十年内令員第四號ニ依ル特設魚雷調整班員ニシテ當該
海軍航空隊附ヲ兼務スル下士官タル掌航空兵器兵(雷爆、高)
ノ員數ヲ含ムモノト了知相成度

(内令提要卷一、一四〇ノ六頁參照)

○雜款

○准士官以上北方部隊赴任ニ關スル件

最近當地經山北方部隊ニ赴任スル軍人(就中准士官以上)ハ夥
シキ數ニ上リ居ルモ現下ノ輸送狀況ニテハ船待期間約一月ヲ要
スルコトアリ此ノ間ノ宿舎、食事等ニ關スル世話ニハ多大ノ困
難ヲ來シ居ル處今次修業ノ豫備學生等ノ如ク一日ニ百名近ク何
等ノ豫報ナク一時ニ赴任セシメラルル時ハ之ガ始末ニ一層困惑
スル實情ニ付自今赴任者アル場合ハ豫メ本府ニ連絡セララル様
取計相成度

(大 湊 警 備 府)

○疎開移轉

當局第一課ノ一部(左記ノ通)及第二課ハ昭和十九年十二月二
十八日横濱市港北區日吉町海軍省第七分室ニ疎開移轉セリ

記

航空配員及潜水艦配員關係
特務士官、准士官任免及特務士官、准士官、下士官、兵配員統計
關係
文官（判任文官）補任ノ一部、囑託徵用員及軍政要員關係
士官及豫備士官履歷關係
（海軍省人事局）

○削除

一月四日附秘海軍公報令達欄下段内令第一三八七號ハ削除ス

○本日海軍公報發行セズ



海軍公報

第四九〇三號

昭和二十年一月十五日

海軍大臣官房

○令 達

達第五號

昭和十九年度ニ於テ建造ニ着手ノ驅逐艦八隻、海防艦十四隻及
輸送艦二隻ニ左ノ通命名ス

昭和二十年一月八日

海軍大臣

株式會社藤永田造船所ニ於テ建造

驅逐艦 桂 (カツラ)

横須賀海軍工廠ニ於テ建造

驅逐艦 梓 (アツサ)

驅逐艦 榊 (サカキ)

驅逐艦 楠 (クスノキ)

驅逐艦 初櫻 (ハツザクラ)

驅逐艦 八重櫻 (ヤヘザクラ)

舞鶴海軍工廠ニ於テ建造

驅逐艦 雄竹 (ヲダケ)

驅逐艦 初梅 (ハツウメ)

三井造船株式會社玉野造船所ニ於テ建造

海防艦 高根 (タカネ)

浦賀船渠株式會社ニ於テ建造

海防艦 伊唐 (イカラ)

海防艦 生野 (イキノ)

日立造船株式會社ニ於テ建造

海防艦 波太 (ハブト)

日本海船渠株式會社ニ於テ建造

第八十九號海防艦

日本鋼管株式會社鶴見造船所ニ於テ建造

第九十七號海防艦

第一百五號海防艦

株式會社新潟鐵工所ニ於テ建造

第二百二十五號海防艦

日立造船株式會社向島工場ニ於テ建造

第六十二號海防艦

川崎重工業株式會社ニ於テ建造

第七十八號海防艦

株式會社東京石川島造船所ニ於テ建造

第一百十六號海防艦

株式會社播磨造船所ニ於テ建造

第一百五十八號海防艦

三菱重工業株式會社長崎造船所ニ於テ建造

秘海軍公報 第四九〇三號 昭和二十年一月十五日

四五

1629

第百九十四號海防艦
 第百九十六號海防艦
 吳海軍工廠ニ於テ建造
 第十九號輸送艦
 第二十號輸送艦

達第八號
 海軍軍需部處務規程中左ノ通改正ス

昭和二十年一月十二日 海軍大臣

第七條ノ二第一號中「行動用消耗品」ヲ「主計長主管圖書類」ニ改ム
 第八條第一號乃至第五號中「及艦營需品タル行動用消耗品」ヲ削ル
 第九條ノ二第一號中「及軍事教育圖書」ヲ「軍事教育圖書及艦營需品タル主計長主管圖書類」ニ改ム
 第九條ノ三第二號中「及第三課」ヲ削ル
 第九條ノ四中「(行動用消耗品ヲ除ク)」及「艦營需品タル行動用消耗品ニ關スルコトハ第三課」ヲ削ル
 第九條ノ五表中三重縣四日市市及山口縣德山市ノ項分掌事項ノ欄「行動用消耗品(一般用潤滑油、糸屑及古綿布共)」ヲ「糸屑、古綿布」ニ改ム

附則
 本令中艦營需品タル主計長主管圖書類ニ關スル部分ハ昭和二十年

年二月一日ヨリ之ヲ施行ス
 (諸例則卷一、二一八頁參照)

○雜 款

○事務開始

| 事務所名 | 設 置 場 所 | 事務開始月日 | 電 話 | 記 事 |
|--------------------|-------------------------------|--------|-----|--------------|
| 第三十九魚雷調整班 | 松島海軍航空隊内 | 二月六日 | | 三月六日 移轉ニ付 |
| 第九五三海軍航空隊 殘務整理班 | 第九〇一海軍航空隊本 部(東港)内 | 二月二日 | | |
| 第百二戰隊司令部 | 海上護衛總司令部内 | 二月三日 | | |
| 海防艦津波艇員事務所 | 横須賀市谷戸六浦賀船 渠株式會社浦賀造船所 内 | 一月七日 | | |
| 第四十魚雷調整班 | 洲ノ島海軍航空隊横須 賀分遣隊内 | 一月八日 | | |

○本日軍機秘海軍公報第六一號(乙配付)發行セリ
 配付先

關係各司令部、横須賀、吳、佐世保、舞鶴各海軍人事部、
 横須賀、吳各海軍工廠、關係各學校

○本日海軍公報發行セズ